

「医薬品副作用被害救済制度に関する認知度調査」
調査報告書
〈〈一般国民〉〉

平成24年度調査分

 独立行政法人医薬品医療機器総合機構 健康被害救済部

目次（その1）

調査概要	P4
対象者のプロフィール	P5
Summary	P6
調査結果	P13
Q1 過去1年間 医療機関にかかった経験	P14
Q2 過去1年間 入院・通院経験	P15
Q3 過去1年間 利用した医療機関の規模	P16
Q4 過去1年間 利用した病院種別	P17
Q5 過去1年間 医薬品使用経験	P18
Q6 過去1年間 医薬品入手経路	P19
Q7 医薬品副作用被害救済制度 認知率	P20
Q8 生物由来製品感染等被害救済制度 認知率	P21
Q9 医薬品副作用被害救済制度 内容認知(全体)	P22
Q9 医薬品副作用被害救済制度 内容認知(性・年代別)	P23
Q10 医薬品副作用被害救済制度 認知経路	P24
Q11 医薬品副作用被害救済制度 教えてもらった人	P25
Q12 医薬品副作用被害救済制度 パンフレット・ポスター接触場所	P26
Q13 広告の認知率	P27
Q14 広告の接触媒体	P28
Q15 広告の評価(全体)	P29
Q15 広告の評価(性・年代別)	P30

目次（その2）

Q16	フォーラム『医薬品の副作用被害と救済制度』認知率	P31
Q17	フォーラム『医薬品の副作用被害と救済制度』認知媒体	P32
Q18	キャラクターの評価(全体)	P33
Q18	キャラクターの評価(性・年代別)	P34
Q19	医薬品副作用被害救済制度 関心度	P35
Q20	制度周知方法	P36
Q21	副作用の経験(本人)	P37
Q22	副作用の経験(家族・知人)	P38
Q23	副作用で治療を受けた経験	P39
Q24	医薬品副作用被害救済制度を利用した経験	P40
Q25	医薬品副作用被害救済制度を利用しなかった理由	P41
Q26	医薬品副作用被害救済制度 情報収集の方法	P42
Q27	医薬品副作用被害救済制度 今後の利用意向	P43
Q28	医薬品副作用被害救済制度 利用したくない理由	P44
	付録:調査票	P45

調査概要

- ・ 調査目的 医薬品副作用被害救済制度の浸透度を把握し、今後の基礎資料とする
- ・ 調査対象 20歳以上の男女
- ・ 調査地域 全国
- ・ 調査方法 インターネット調査
- ・ 調査時期 平成24年度調査 平成25年3月19日(火)～3月21日(木)
平成23年度調査 平成23年11月24日(木)～11月25日(金)
- ・ 有効回答数 3,114 サンプル

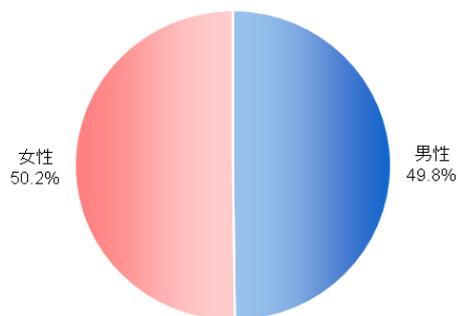
		平成24年度	平成23年度
1	男性/20-29才	307	309
2	男性/30-39才	312	309
3	男性/40-49才	308	309
4	男性/50-59才	314	309
5	男性/60才以上	310	309
6	女性/20-29才	311	309
7	女性/30-39才	311	309
8	女性/40-49才	314	309
9	女性/50-59才	314	309
10	女性/60才以上	313	309
全体		3,114	3,090

(人)

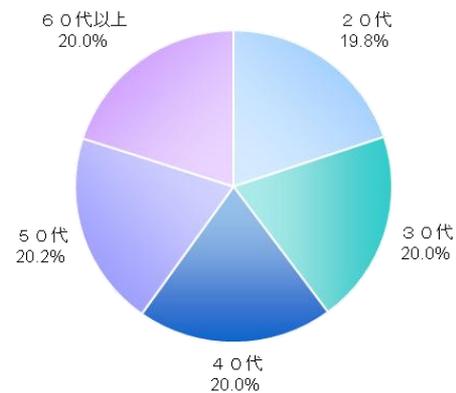
- ・ 調査実施機関 株式会社プラメド
-

対象者のプロフィール (N=3,114)

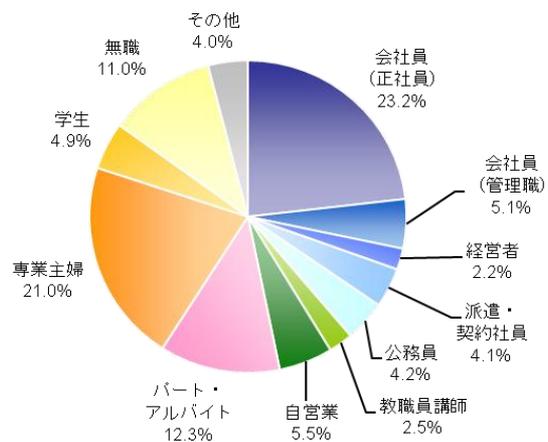
【性別】



【年代】

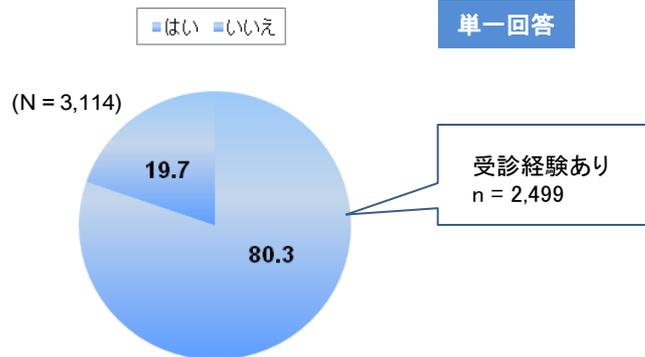


【職業】



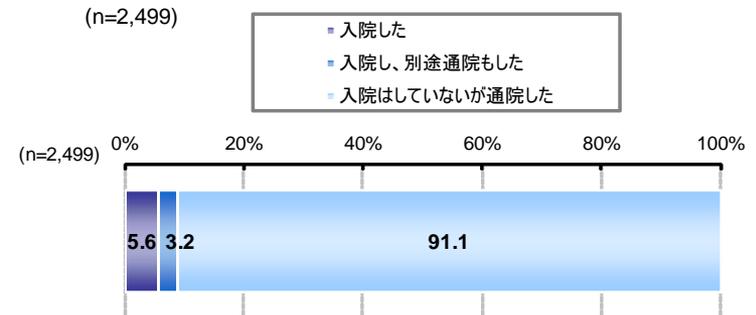
Summary

【過去1年間 医療機関にかかった経験】



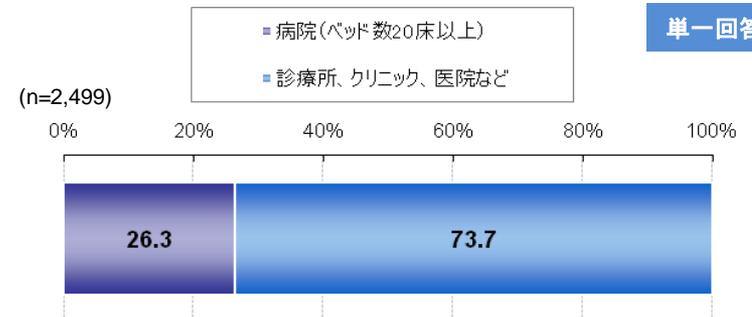
【過去1年間 入院・通院経験】

単一回答



【過去1年間 利用した医療機関の規模】

単一回答



・医療機関への受診経験者は8割。そのうち、入院経験者は1割。

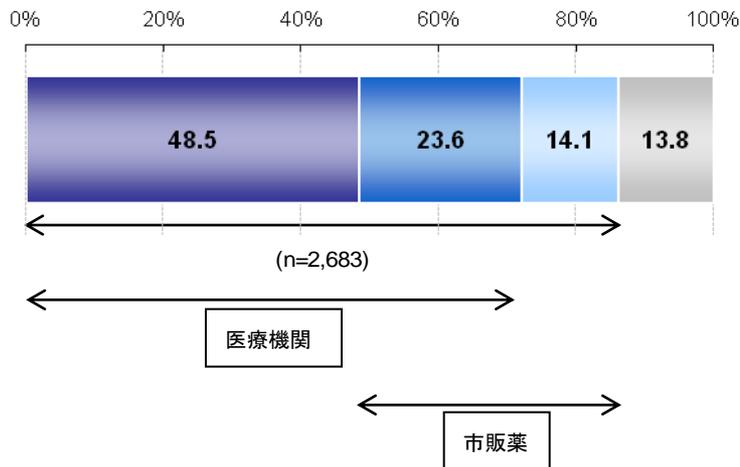
Summary

【過去1年間 医薬品使用経験】

単一回答

(N = 3,114)

- 医療機関で処方された医薬品を使用した
- 医療機関で処方された医薬品、市販されている医薬品ともに使用した
- 市販されている医薬品を使用した
- 使用していない

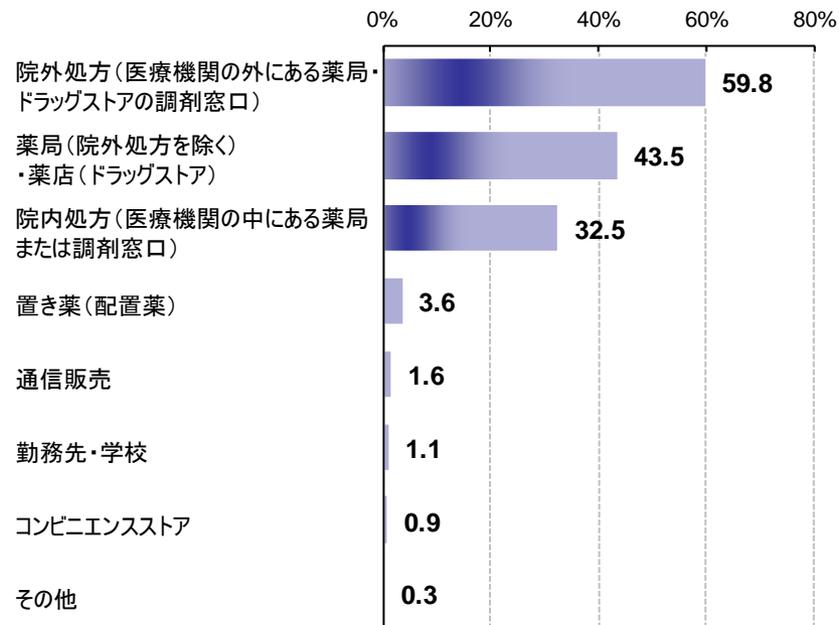


- ・医薬品の使用経験は、「医療機関で処方された医薬品」と「医療機関で処方された医薬品、市販されている医薬品」の合計が72%。
- ・医薬品の主な入手先は「院外処方」60%、「薬局・薬店」44%、「院内処方」33%。

【過去1年間 医薬品入手経路】

複数回答

(n=2,683)

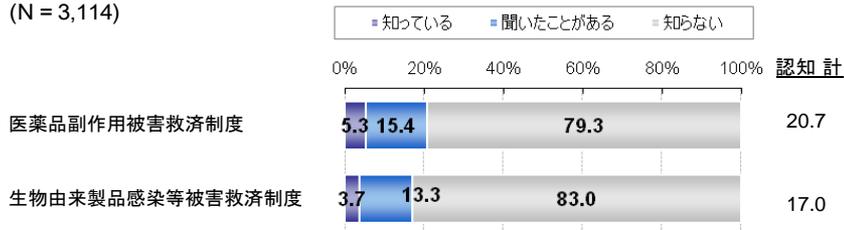


Summary

【健康被害救済制度 認知率】

単一回答

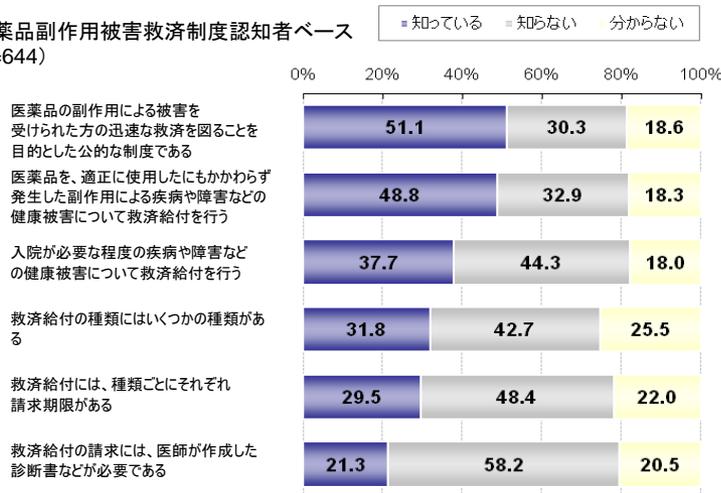
(N = 3,114)



【健康被害救済制度 内容認知】

単一回答

※医薬品副作用被害救済制度認知者ベース (n=644)

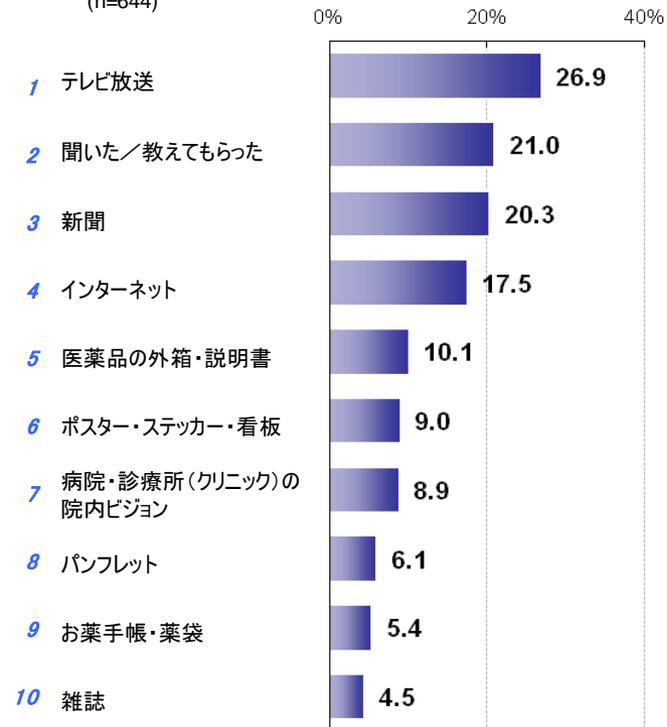


【健康被害救済制度 認知経路(上位10項目)】

複数回答

※医薬品副作用被害救済制度認知者ベース

(n=644)

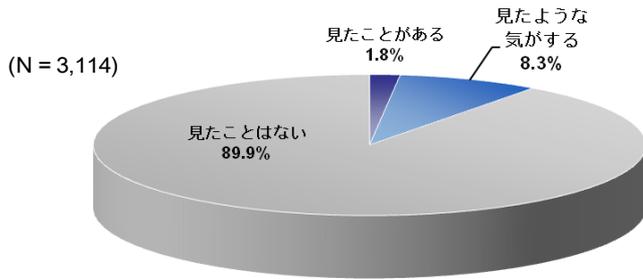


- ・医薬品副作用被害救済制度の認知率(知っている+聞いたことがある)は21%、生物由来製品感染等被害救済制度は17%。
- ・医薬品副作用被害救済制度認知者の認知内容は「医薬品の副作用による被害を受けられた方の迅速な救済を図ることを目的とした公的な制度である」が50%を超える。
- ・医薬品副作用被害救済制度の認知経路は「テレビ放送」が27%。次いで「聞いた／教えてもらった」(21%)、「新聞」(20%)、「インターネット」(18%)が続く。

Summary

【広告 認知率】

単一回答



見たことがある＋見たような気がする 計 10.1%

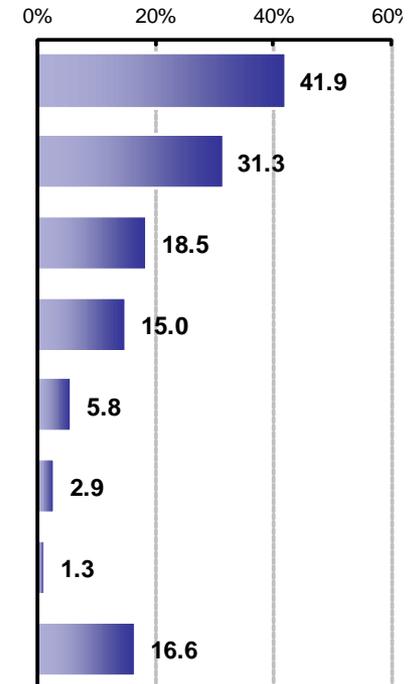
【広告 上位媒体】

複数回答

※広告認知者ベース

(n=313)

- 病院・診療所(クリニック)
- 薬局・薬店(ドラッグストア)
- 新聞(朝日・読売・毎日の全国紙)
- インターネット
- 自治体・保健所などの公共機関
- 電車内
- その他
- 思い出せない



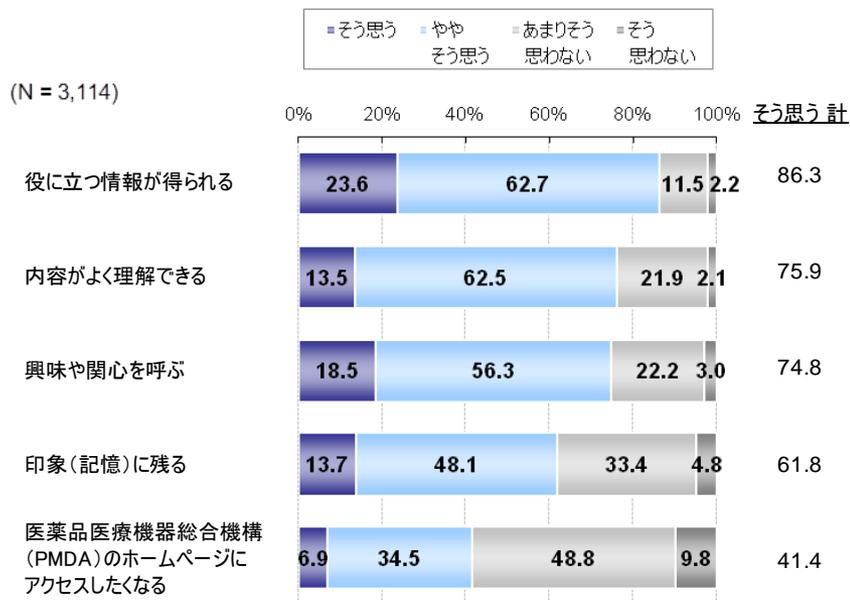
- ・広告の認知率(見たことがある＋見たような気がする)は10%。
- ・広告認知者の主な接触媒体は「病院・診療所(クリニック)」42%、「薬局・薬店(ドラッグストア)」31%、「新聞(全国紙)」19%、「インターネット」15%。

Summary

【広告の評価】

単一回答

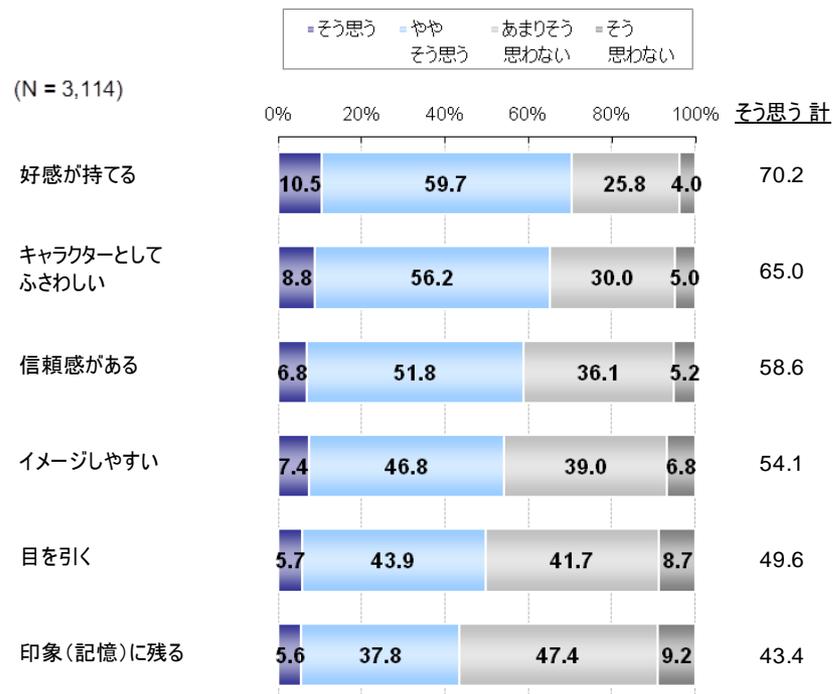
(N = 3,114)



【キャラクターの評価】

単一回答

(N = 3,114)



- ・広告の評価(そう思う+ややそう思う)で最も高かった項目は「役に立つ情報が得られる」86%。以下、「内容がよく理解できる」76%、「興味や関心と呼ぶ」75%。
- ・キャラクターの評価(そう思う+ややそう思う)で最も高かった項目は「好感が持てる」70%。以下、「キャラクターとしてふさわしい」65%、「信頼感がある」59%。

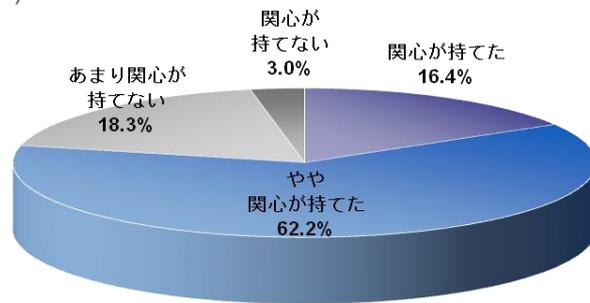
Summary

【医薬品副作用被害救済制度 関心度】

単一回答



(N = 3,114)

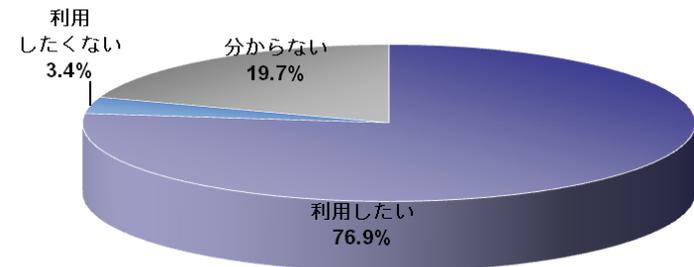


関心が持てた計 78.7%

【医薬品副作用被害救済制度 今後の利用意向】

単一回答

(N = 3,114)



- ・医薬品副作用被害救済制度への関心度(関心が持てた+やや関心が持てた)は79%。
- ・医薬品副作用被害救済制度の今後の利用意向(利用したい)は77%。

調査結果

Q1 過去1年間 医療機関にかかった経験

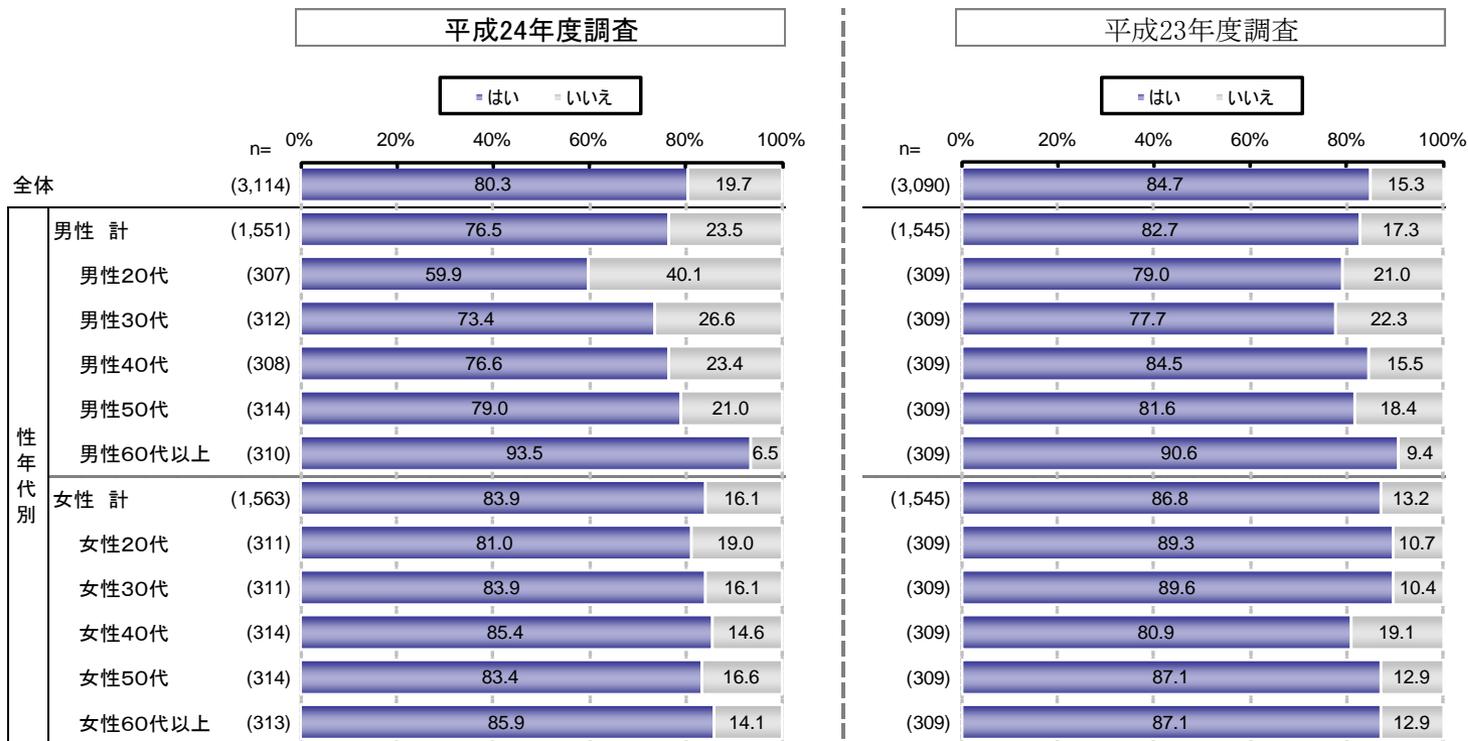
単一回答

H24* Q1 あなたは、過去1年以内に医療機関にかかりましたか。

H23* Q1 あなたは、過去1年以内に医療機関にかかりましたか。

H24* =平成24年度

H23* =平成23年度



・過去1年以内に医療機関を利用したとの回答は80%。昨年度をやや下回っている。

【性・年代別】

・男性は高年齢ほど利用率が高まる傾向にあり、女性はどの年代も平均して高い。

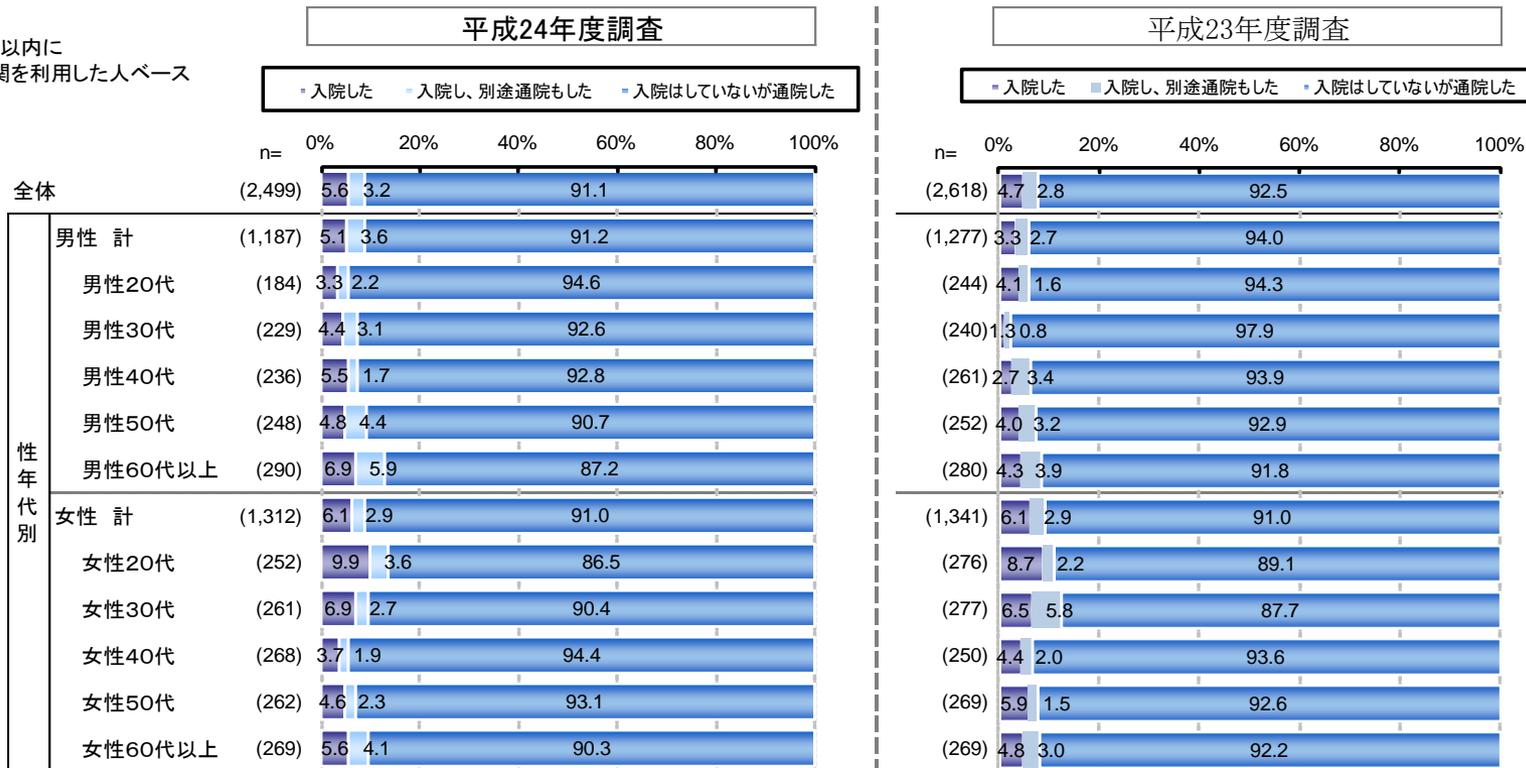
Q2 過去1年間 入院・通院経験

単一回答

H24 Q2 あなたは、過去1年以内に医療機関をどのように利用(入院・通院)しましたか。

H23 Q2 あなたは、過去1年以内に医療機関をどのように利用(入院・通院)しましたか。

※過去1年以内に
医療機関を利用した人ベース



・過去1年間の医療機関利用者の内訳として「通院」のみが90%以上を占めた。「入院」のみは6%、「入院し、別途通院もした」が3%。

【性・年代別】

- ・「男性」の方が「入院し、別途通院もした」がやや高め。
- ・「女性」の方が「入院」のみが高め。特に「女性20代」で10%と高い。
- ・「女性」の20代・30代を除き、「男性」、「女性」ともに年代順に入院経験が高くなる傾向にある。

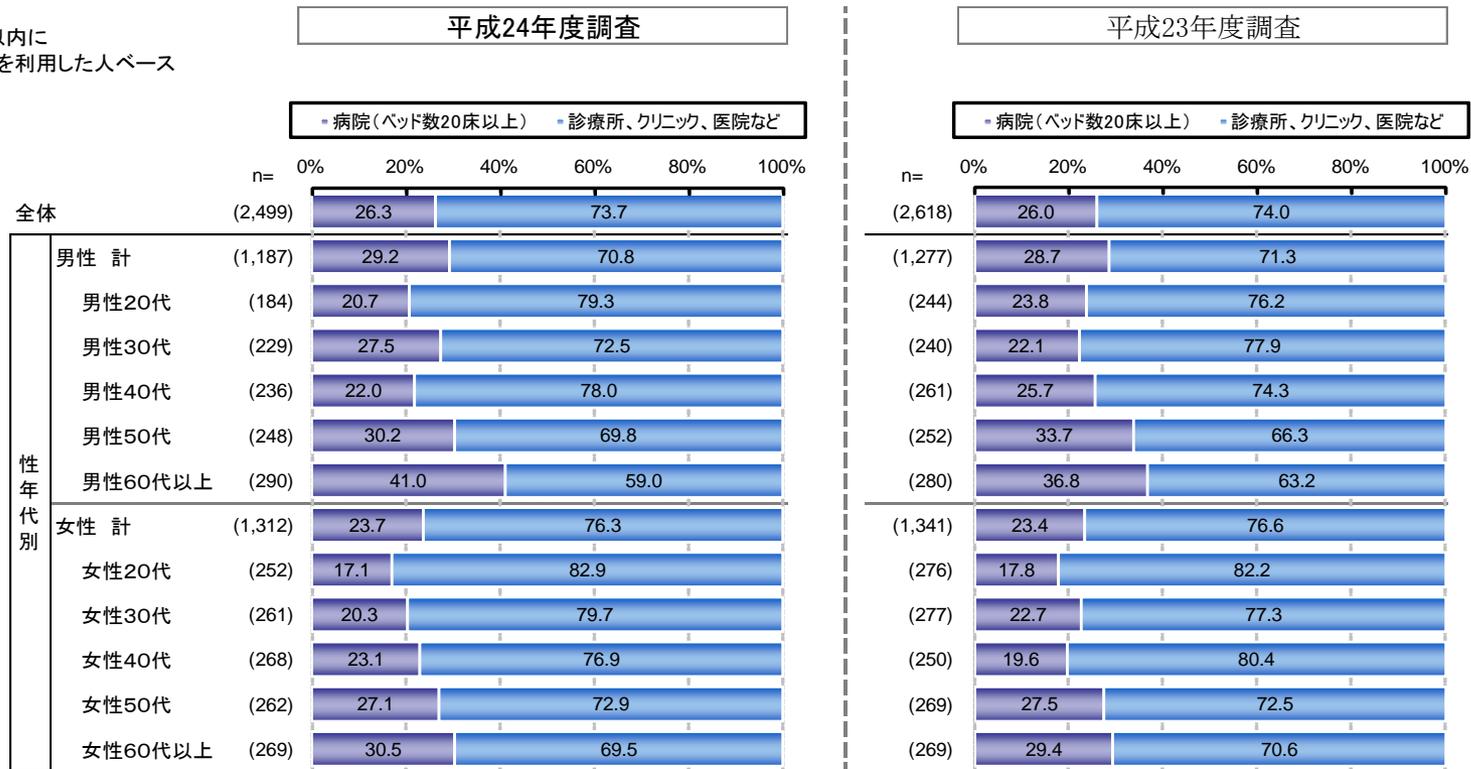
Q3 過去1年間 利用した医療機関の規模

単一回答

H24 Q3 あなたは、過去1年以内にどのような規模の医療機関をもっとも多く利用(回数)しましたか。

H23 Q3 あなたは、過去1年以内にどのような規模の医療機関をもっとも多く利用(回数)しましたか。

※過去1年以内に
医療機関を利用した人ベース



・利用した医療機関の規模は、「診療所、クリニック、医院など」が74%、「病院」が26%。

【性・年代別】

・「女性」は高年齢層ほど「病院」の利用傾向が高まる。

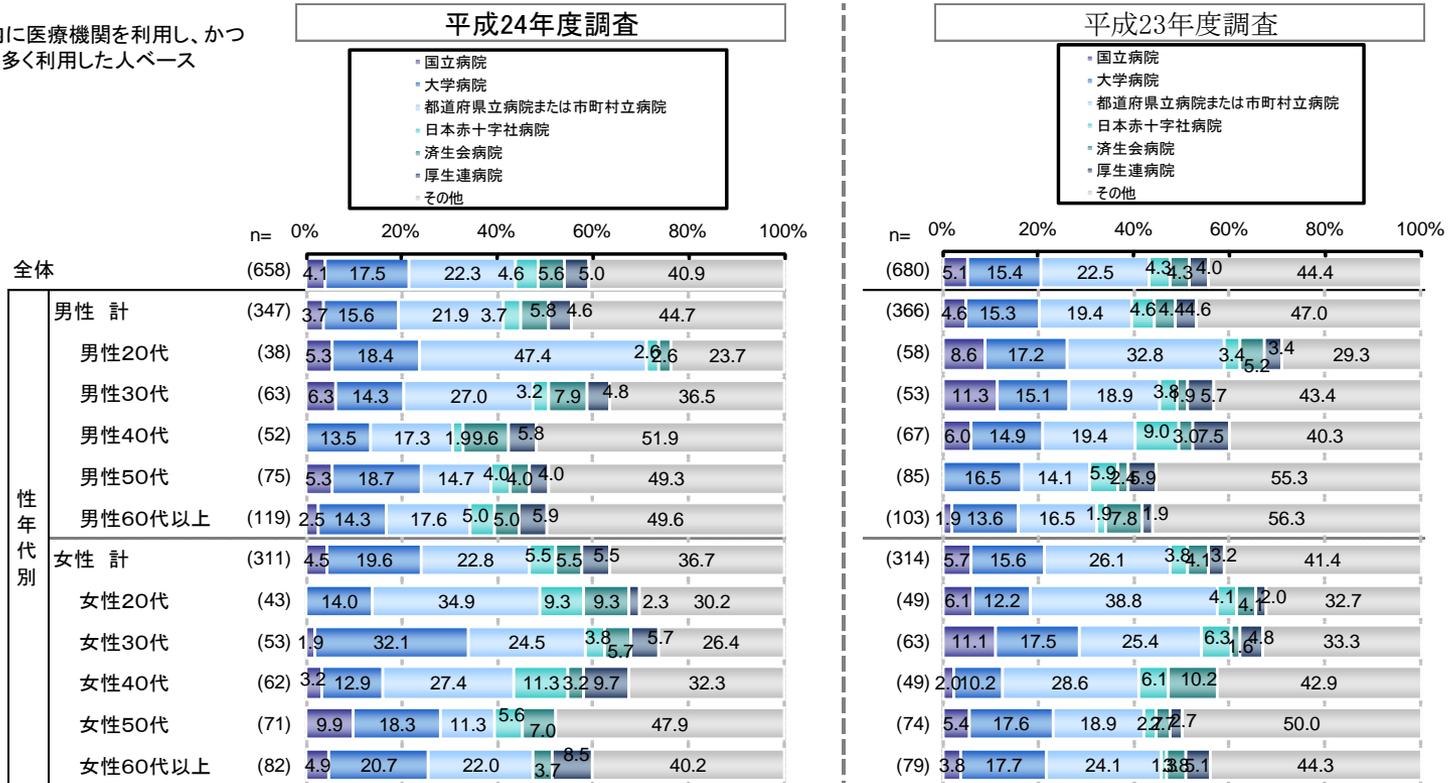
Q4 過去1年間 利用した病院種別

単一回答

H24 Q4 あなたが、過去1年以内に利用された病院はどこですか。もっとも多く利用されたところをひとつお選びください。

H23 Q4 あなたが、過去1年以内に利用された病院はどこですか。もっとも多く利用されたところをひとつお選びください。

※過去1年以内に医療機関を利用し、かつ「病院」を最も多く利用した人ベース



・利用した病院の内訳は「都道府県立病院または市町村立病院」が22%で最も高く、次いで「大学病院」18%となっている。「その他」は41%。利用傾向は昨年度とあまり変わらない。

【性・年代別】

・「男性20代」、「女性20代」の「都道府県立病院または市町村立病院」、「女性30代」の「大学病院」の利用が高め。

Q5 過去1年間 医薬品使用経験

H24 Q5 あなたは、過去1年以内に医薬品(薬)を使用しましたか。

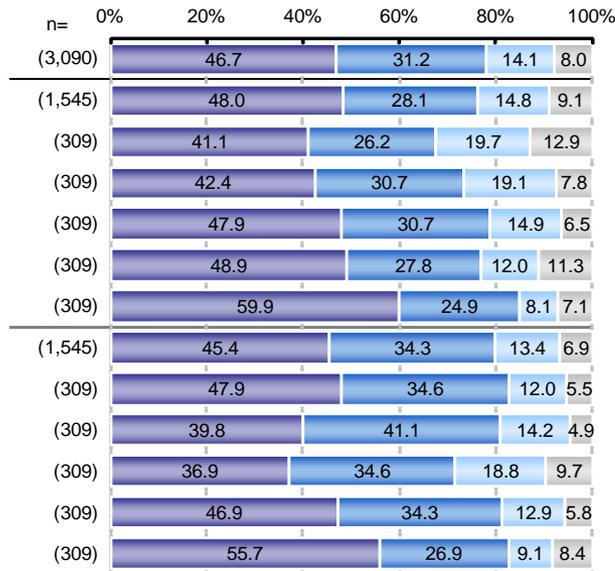
H23 Q5 あなたは、過去1年以内に医薬品(薬)を使用しましたか。

平成24年度調査

- 医療機関で処方された医薬品を使用した
- 医療機関で処方された医薬品、市販されている医薬品ともに使用した
- 市販されている医薬品を使用した
- 使用していない

平成23年度調査

- 医療機関で処方された医薬品を使用した
- 医療機関で処方された医薬品、市販されている医薬品ともに使用した
- 市販されている医薬品を使用した
- 使用していない



・医薬品の使用経験は「医療機関で処方された医薬品」と「医療機関で処方された医薬品、市販されている医薬品」の合計が72%。
 【性・年代別】
 ・「男性」、「女性」ともに高年齢層になるにつれ「医療機関で処方された医薬品の服用割合が増える。」

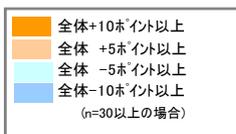
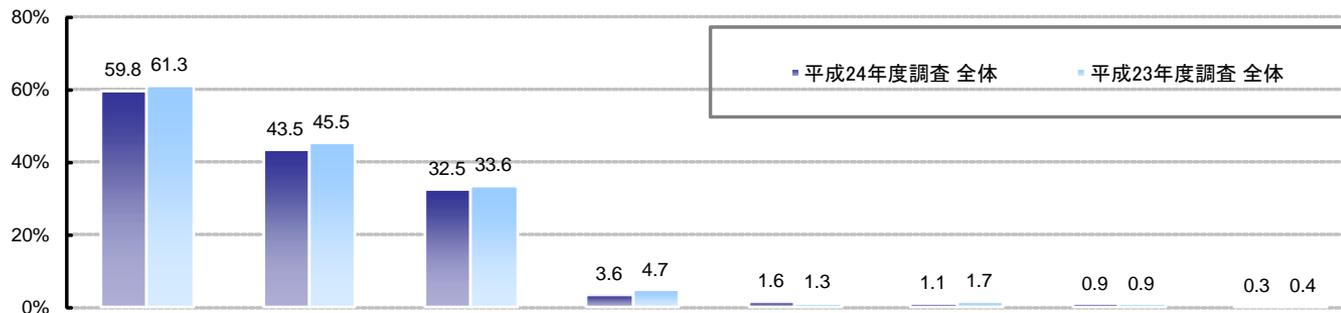
Q6 過去1年間 医薬品入手経路

複数回答

H24 Q6 あなたは、その医薬品をどこで購入(入手)しましたか。あてはまるものをすべてお選びください。

H23 Q6 あなたは、その医薬品(薬)をどこで購入(入手)しましたか。あてはまるものをすべてお選びください。

※過去1年以内に
| 医薬品を使用した人ベース



		n=	院外処方 (医療機関の外に ある薬局・ドラッグ ストアの調剤窓口)	薬局 (院外処方を除く) ・薬店 (ドラッグストア)	院内処方 (医療機関の中 にある薬局または 調剤窓口)	置き薬 (配置薬)	通信販売	勤務先・学校	コンビニエンスストア	その他
平成24年度調査 全体		(2,683)	59.8	43.5	32.5	3.6	1.6	1.1	0.9	0.3
性 年 代 別	男性 計	(1,292)	57.7	40.7	30.5	3.0	1.6	1.7	1.2	0.5
	男性20代	(222)	44.6	49.5	28.8	3.2	0.5	2.7	3.2	0.5
	男性30代	(260)	55.4	46.9	28.8	2.7	3.1	1.2	0.4	0.4
	男性40代	(247)	60.3	45.3	27.1	4.0	2.8	2.4	0.8	0.4
	男性50代	(275)	57.1	39.6	30.2	4.0	1.5	2.5	0.7	0.7
	男性60代以上	(288)	68.1	25.3	36.5	1.4	0.3	-	1.0	0.3
	女性 計	(1,391)	61.8	46.0	34.4	4.2	1.6	0.6	0.6	0.2
	女性20代	(269)	58.7	52.0	39.0	5.9	-	1.1	0.7	-
	女性30代	(281)	61.9	47.3	34.5	2.8	0.4	0.7	0.4	-
	女性40代	(283)	63.3	52.7	33.2	3.5	2.8	0.7	0.4	0.7
女性50代	(280)	63.2	46.1	32.1	5.4	2.1	-	1.1	0.4	
女性60代以上	(278)	61.5	32.0	33.5	3.2	2.5	0.4	0.4	-	
平成23年度調査 全体		(2,843)	61.3	45.5	33.6	4.7	1.3	1.7	0.9	0.4

平成24年度調査全体値の降順にソート

・医薬品の入手先トップは「院外処方」60%。以下「薬局(院外処方を除く)・薬店(ドラッグストア)」44%、「院内処方」33%が次ぐ。

【性・年代別】

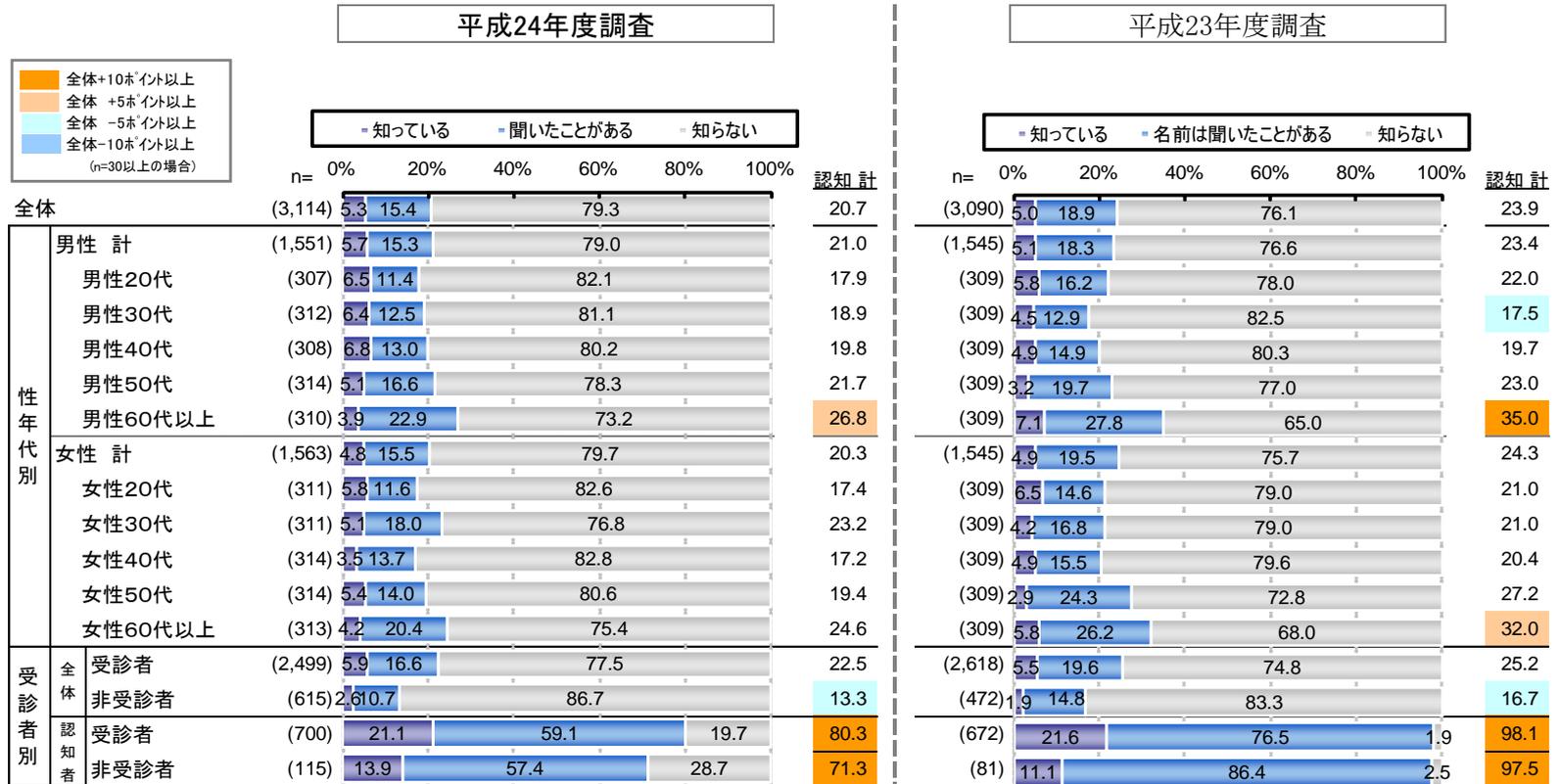
・「男性20代」は「薬局」と「コンビニエンスストア」、「女性20代」、「女性40代」は「薬局」、「男性60代」は「院外処方」の比率がそれぞれ高め。

Q7 医薬品副作用被害救済制度 認知率

単一回答

H24 Q7 あなたは、副作用が起きたときに、医療費等の救済給付を行う公的な「医薬品副作用被害救済制度」があることをご存じですか。

H23 Q7 あなたは下記に挙げた健康被害救済制度をご存知ですか。※下記＝医薬品副作用被害救済制度



・医薬品副作用被害救済制度の認知率(知っている+聞いたことがある)は21%で昨年度をやや下回っているものの、「知っている」は0.3%上回っている。

【性・年代別】

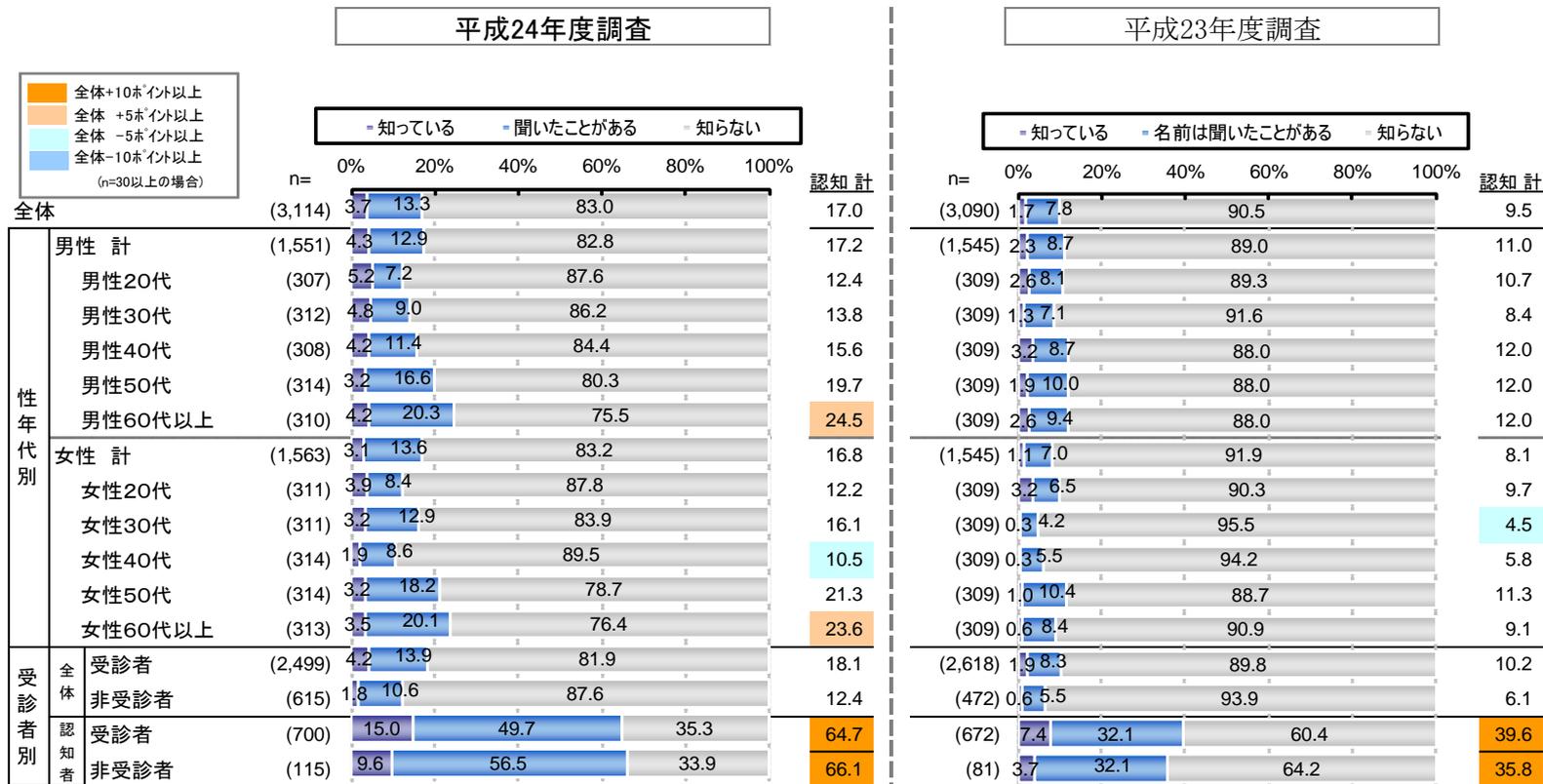
・「男性」、「女性」とともに高年齢層の認知度が高い。受診者別では受診者が非受診者を上回っている。

Q8 生物由来製品感染等被害救済制度 認知率

単一回答

H24 Q8 あなたは、輸血用血液製剤などを介して感染などが発生した場合に、医療費等の救済給付を行う公的な「生物由来製品感染等被害救済制度」があることをご存じですか。

H23 Q7 あなたは、下記に挙げた健康被害救済制度をご存知ですか。※下記＝生物由来製品感染等被害救済制度



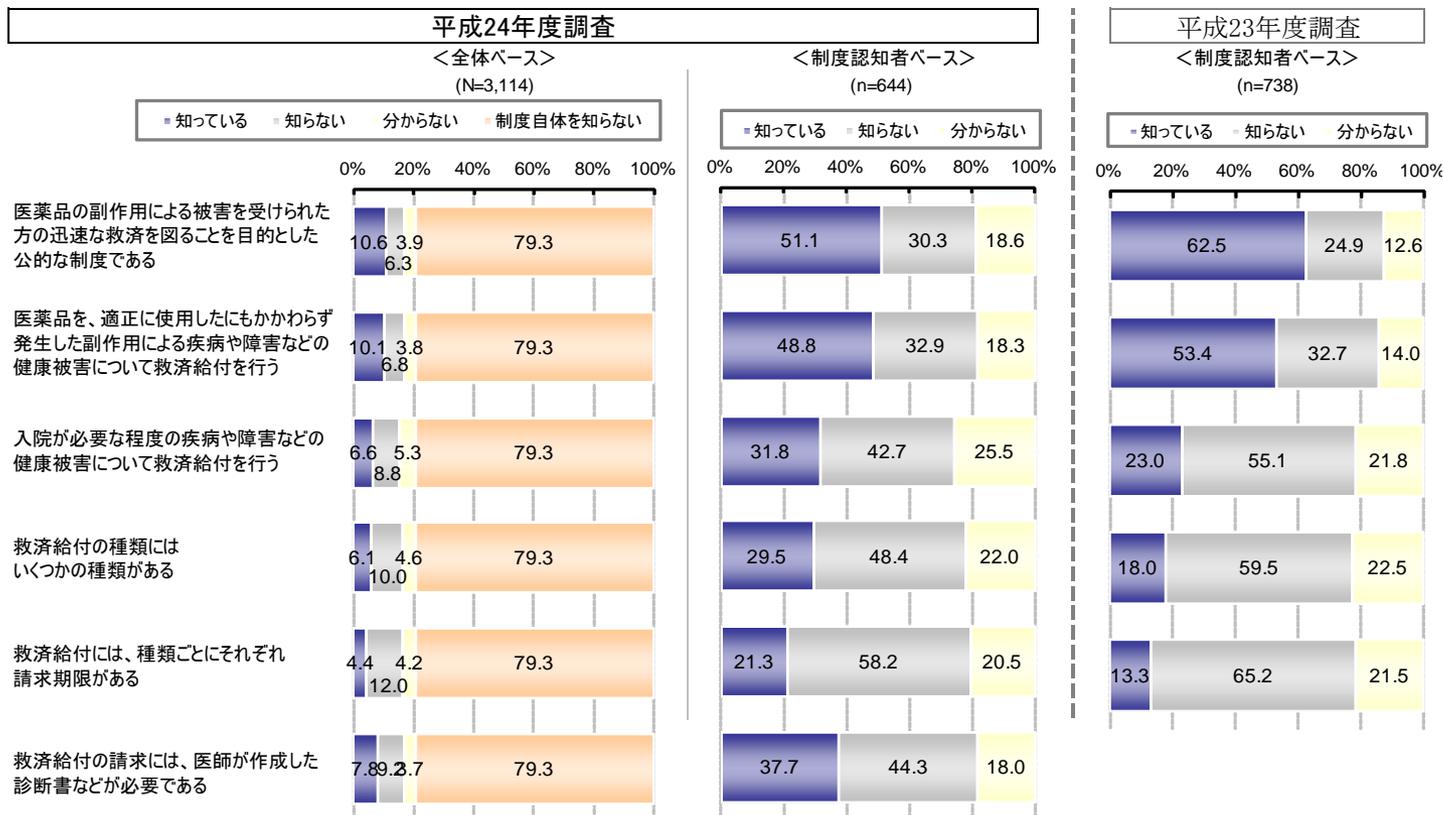
・生物由来製品感染等被害救済制度の認知率(知っている＋聞いたことがある)は17%。昨年度を上回っている。

Q9 医薬品副作用被害救済制度 内容認知（全体）

単一回答

H24 Q9「医薬品副作用被害救済制度」について、以下それぞれにあてはまるものをひとつお選びください。

H23 Q8「医薬品副作用被害救済制度」について、以下それぞれにあてはまるものをひとつお選びください。



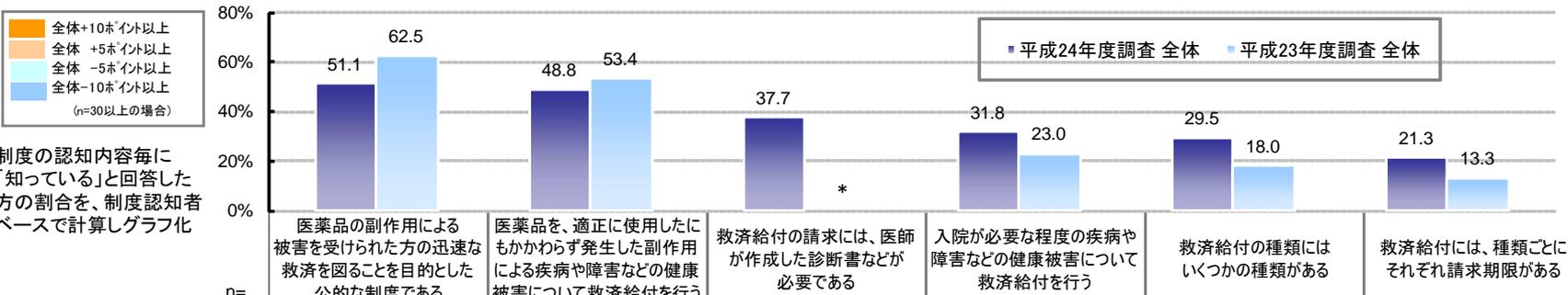
・ 制度認知者において、認知されている内容は「医薬品の副作用による被害を受けられた方の迅速な救済を図ることを目的とした公的な制度である」51%と最も高く、「救済給付には、種類ごとにそれぞれ請求期限がある」21%と最も低い。昨年度と同様の傾向であった。

Q9 医薬品副作用被害救済制度 内容認知（性・年代別）

単一回答

H24 Q9「医薬品副作用被害救済制度」について、以下それぞれにあてはまるものをひとつお選びください。

H23 Q8「医薬品副作用被害救済制度」について、以下それぞれにあてはまるものをひとつお選びください。



制度の認知内容毎に「知っている」と回答した方の割合を、制度認知者ベースで計算しグラフ化

		n=	51.1	48.8	37.7	31.8	29.5	21.3
平成24年度調査 全体	(644)		51.1	48.8	37.7	31.8	29.5	21.3
性年代別	男性 計	(326)	51.2	47.2	34.7	35.0	32.2	23.9
	男性20代	(55)	56.4	47.3	38.2	47.3	32.7	29.1
	男性30代	(59)	55.9	54.2	35.6	42.4	40.7	28.8
	男性40代	(61)	54.1	54.1	29.5	37.7	41.0	27.9
	男性50代	(68)	47.1	39.7	35.3	32.4	27.9	25.0
	男性60代以上	(83)	45.8	43.4	34.9	21.7	22.9	13.3
	女性 計	(318)	50.9	50.3	40.9	28.6	26.7	18.6
	女性20代	(54)	48.1	53.7	44.4	35.2	37.0	24.1
	女性30代	(72)	52.8	48.6	33.3	23.6	23.6	15.3
	女性40代	(54)	55.6	55.6	35.2	24.1	20.4	11.1
女性50代	(61)	52.5	52.5	47.5	37.7	27.9	24.6	
女性60代以上	(77)	46.8	44.2	44.2	24.7	26.0	18.2	
者受	受診者	(562)	51.8	49.3	37.5	31.7	29.2	21.2
別診	非受診者	(82)	46.3	45.1	39.0	32.9	31.7	22.0
平成23年度調査 全体	(738)		62.5	53.4	*	23.0	18.0	13.3

* 平成23年度非聴取項目

【性・年代別】

・男性20代から40代の認知が高めの傾向。

【受診者別】

・受診、非受診による顕著な差はみられない。

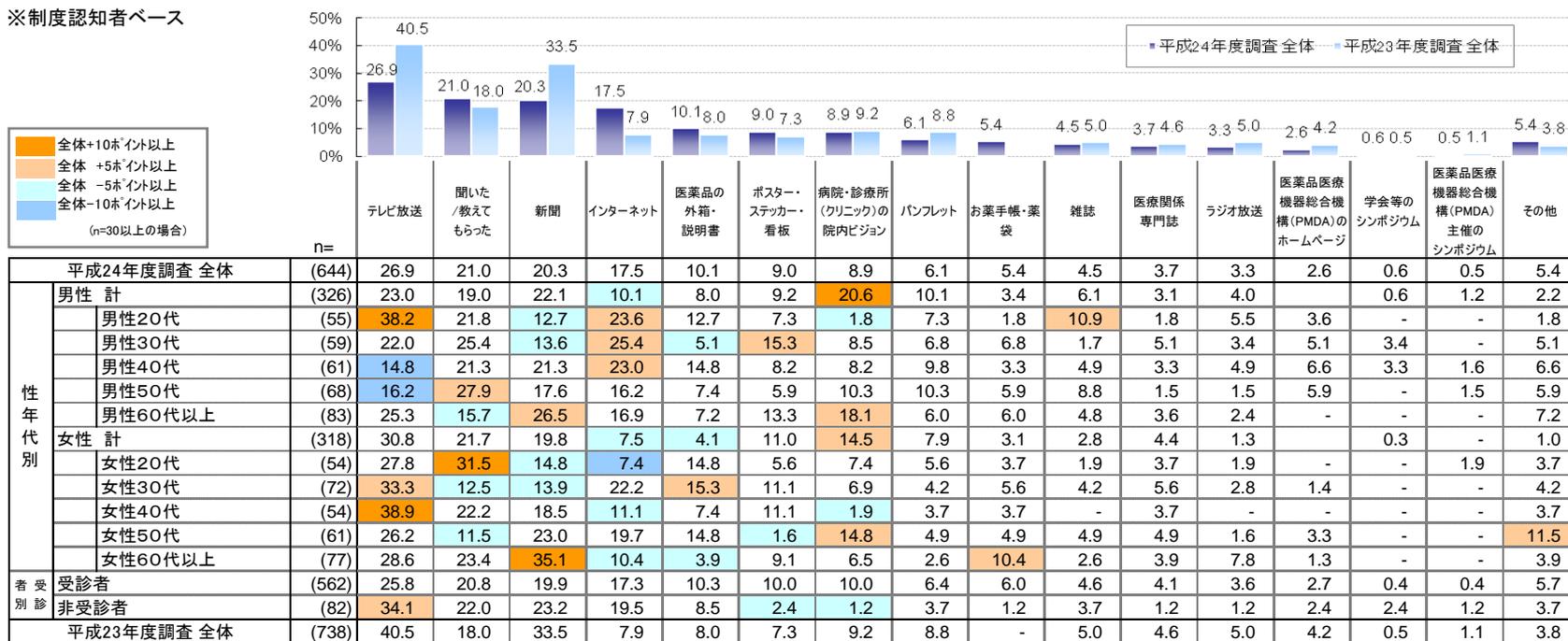
Q10 医薬品副作用被害救済制度 認知経路

複数回答

H24 Q10 あなたは「医薬品副作用被害救済制度」をどのようにして(何から)知りましたか。または、どのようにして(何から)聞きましたか。あてはまるものをすべてお選びください。

H23 Q9 あなたは「医薬品副作用被害救済制度」をどのようにして(何から)知りましたか。または、どのようにして(何から)聞きましたか。あてはまるものをすべてお選びください。

※制度認知者ベース



※平成24年度調査全体値の降順にソート

- ・主な認知経路は「テレビ放送」27%、「聞いた/教えてもらった」21%、「新聞」20%、「インターネット」18%が続く。
- ・昨年度との比較では、「テレビ放送」と「新聞」が大きく落ち込んでいるが、「インターネット」は大きく伸びている。

Q11 医薬品副作用被害救済制度 教えてもらった人

複数回答

H24 Q11 あなたは「医薬品副作用被害救済制度」について、誰から知りましたか。あてはまるものをすべてお選びください。

H23 Q10 あなたは「医薬品副作用被害救済制度」について、誰から知りましたか。あてはまるものをすべてお選びください。

※ 制度認知者の認知経路で「聞いた/教えてもらった」回答者ベース



平成24年度調査全体値の降順にソート

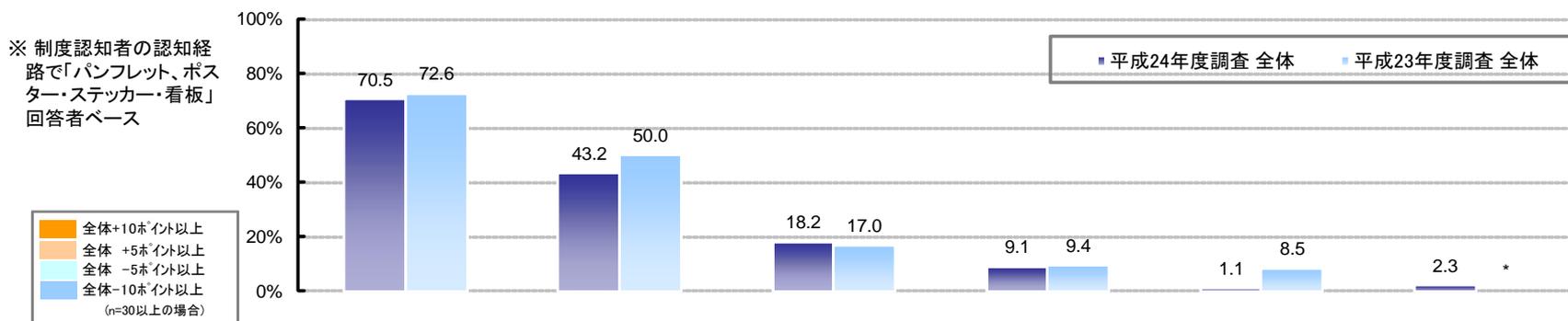
・「知人・友人」「家族」に続き、「医師」「薬剤師」「看護師」の医療従事者から教えてもらった人が多い。

Q12 医薬品副作用被害救済制度 パンフレット・ポスター接触場所

複数回答

H24 Q12 あなたは「医薬品副作用被害救済制度」のパンフレット、ポスター・ステッカー・看板をどこで見ましたか。あてはまるものをすべてお選びください。

H23 Q11 あなたは「医薬品副作用被害救済制度」のパンフレット・リーフレット、ポスター・ステッカー・看板をどこで見ましたか。あてはまるものをすべてお選びください。



n=		病院・診療所 (クリニック)	薬局・薬店 (ドラッグストア)	自治体・保健所などの公共機関	電車	駅構内	その他	
平成24年度調査 全体	(88)	70.5	43.2	18.2	9.1	1.1	2.3	
性別	男性 計	(52)	73.1	44.2	25.0	5.8	1.9	1.9
	男性20代	(7)	57.1	85.7	14.3	28.6	14.3	-
	男性30代	(12)	83.3	41.7	16.7	-	-	-
	男性40代	(9)	88.9	33.3	44.4	-	-	-
	男性50代	(11)	45.5	27.3	45.5	9.1	-	9.1
	男性60代以上	(13)	84.6	46.2	7.7	-	-	-
	女性 計	(36)	66.7	41.7	8.3	13.9	-	2.8
	女性20代	(5)	80.0	40.0	-	40.0	-	-
	女性30代	(11)	54.5	27.3	9.1	27.3	-	-
	女性40代	(8)	75.0	37.5	-	-	-	12.5
女性50代	(4)	100.0	25.0	-	-	-	-	
女性60代以上	(8)	50.0	75.0	25.0	-	-	-	
平成23年度調査 全体	(106)	72.6	50.0	17.0	9.4	8.5	-	

※平成24年度調査全体値の降順にソート

・主な接触場所は「病院・診療所(クリニック)」71%、「薬局・薬店(ドラッグストア)」43%、「自治体・保健所などの公共機関」18%、「電車」9%となっている。

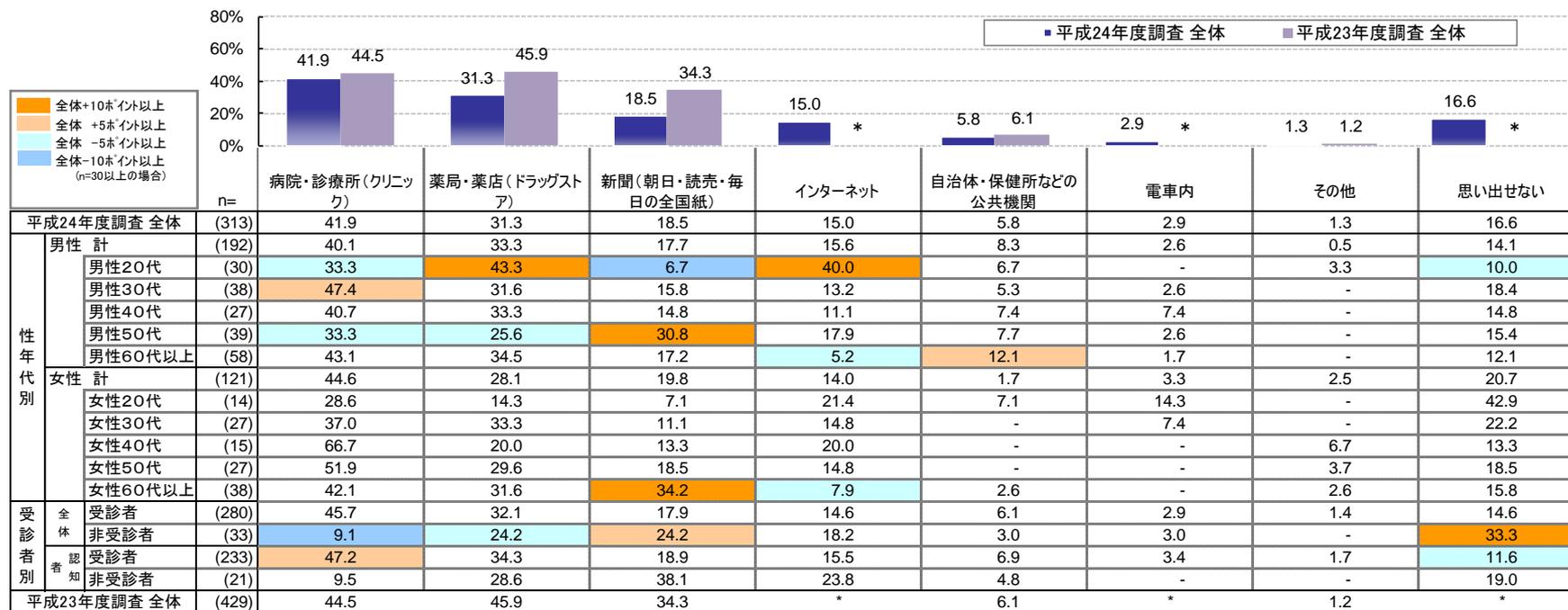
Q14 広告の接触媒体

複数回答

H24 Q14 あなたは、どこでこの広告を見ましたか。あてはまるものをすべてお選びください。

H23 Q13 あなたは、どこでこの広告を見ましたか。あてはまるものをすべてお選びください。

※広告認知者ベース



*:平成23年度非聴取項目 平成24年度調査全体値の降順にソート

- ・広告接触は、「病院・診療所(クリニック)」42%、「薬局・薬店(ドラッグストア)」31%の順であり、昨年度と順位が逆転している。
- ・平成24年度の調査において、新たに「インターネット」(15%)、「電車内」(3%)、「思い出せない」(17%)を選択肢に加えた。

【性・年代別/受診者別】

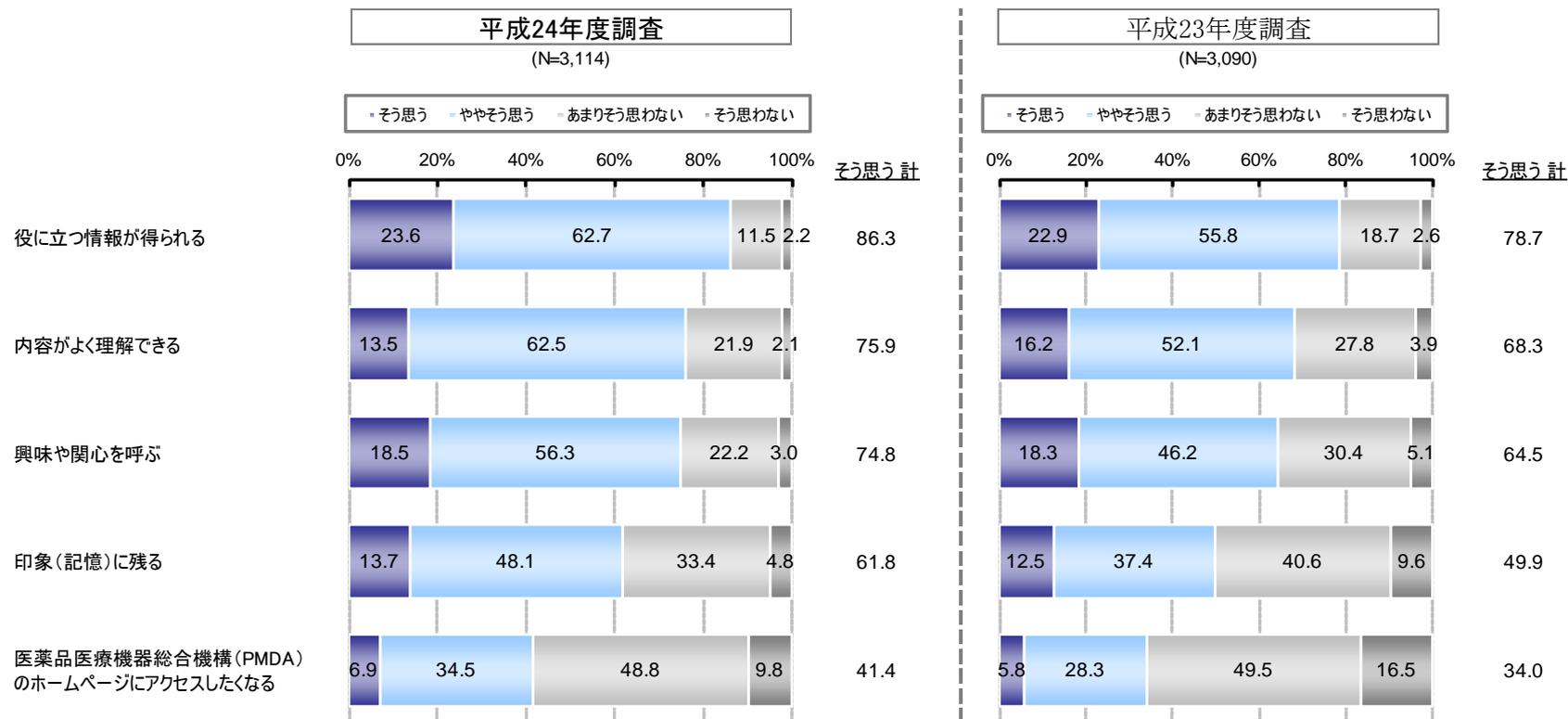
- ・「病院・診療所」では「男性30代」、「女性40代・50代」が高い一方、非受診者では大幅に低い。「薬局」では「男性20代」が高い。
- ・「新聞」では「男性50代」、「女性60代」、「インターネット」では「男性20代」が高い。

Q15 広告の評価（全体）

単一回答

H24 Q15 画像（新聞広告、ポスター、インターネット）をご覧になった感想をお聞きます。以下それぞれにあてはまると思われるものをひとつお選びください。

H23 Q14 画像（新聞広告、看板、ポスター）をご覧になった感想をお聞きます。以下それぞれにあてはまると思われるものをひとつお選びください。



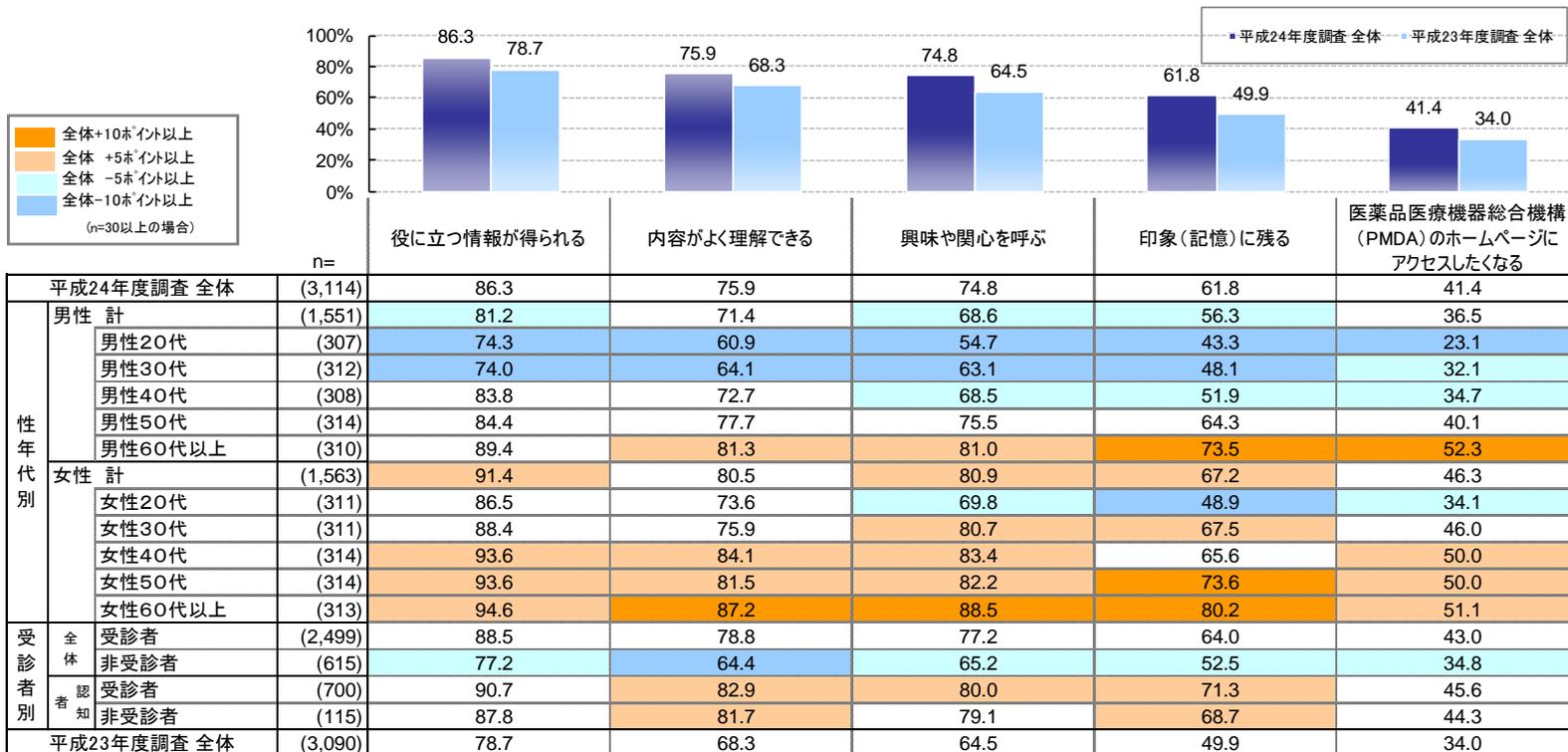
・広告の評価（そう思う＋ややそう思う）が高かった項目は「役に立つ情報が得られる」86%。以下、「内容がよく理解できる」76%、「興味や関心と呼ぶ」75%が続く。

Q15 広告の評価（性・年代別）

単一回答

H24 Q15 画像（新聞広告、ポスター、インターネット）をご覧になった感想をお聞きます。以下それぞれにあてはまると思われるものをひとつお選びください。

H23 Q14 画像（新聞広告、看板、ポスター）をご覧になった感想をお聞きます。以下それぞれにあてはまると思われるものをひとつお選びください。



【性・年代別】

- ・男性よりも女性、低年齢層よりも高年齢層で評価が高い傾向にある。
- ・男性においても、60代以上では評価が高いが、女性の60代以上ではさらに高い評価である。

【受診者別】

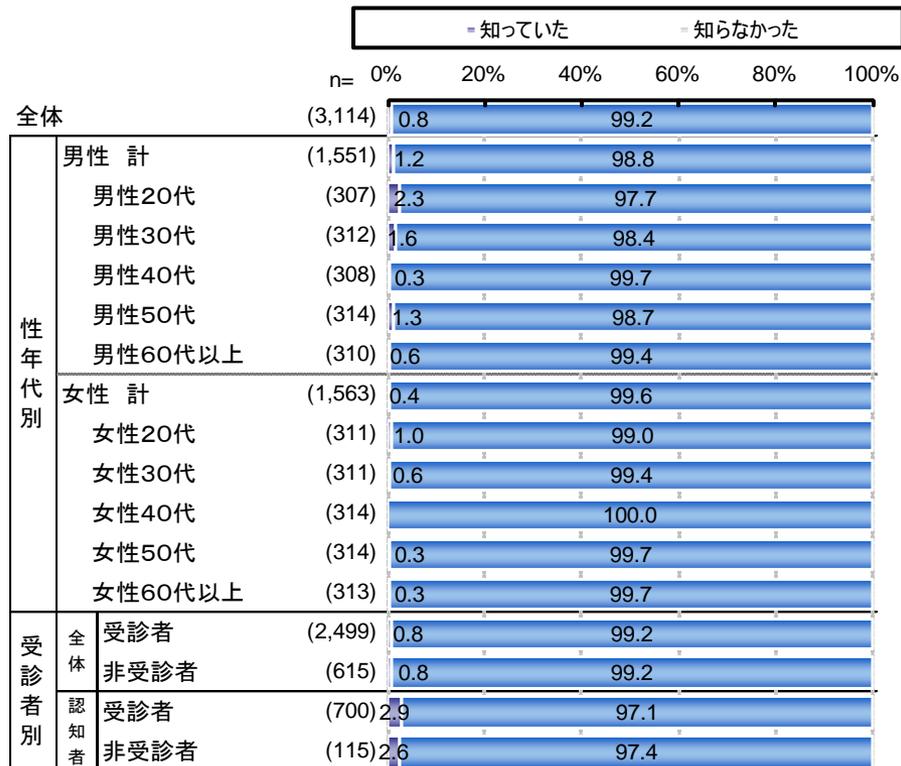
- ・全体ベースでは非受診者の評価は比較的低い傾向にあるが、制度の認知者ベースでは、非受診者においても比較的高い評価である。

Q16 フォーラム『医薬品の副作用被害と救済制度』 認知率

単一回答

H24 Q16 あなたは、フォーラム『医薬品の副作用被害と救済制度』(2012年11月18日)が開催されたことをご存じでしたか。

平成24年度調査



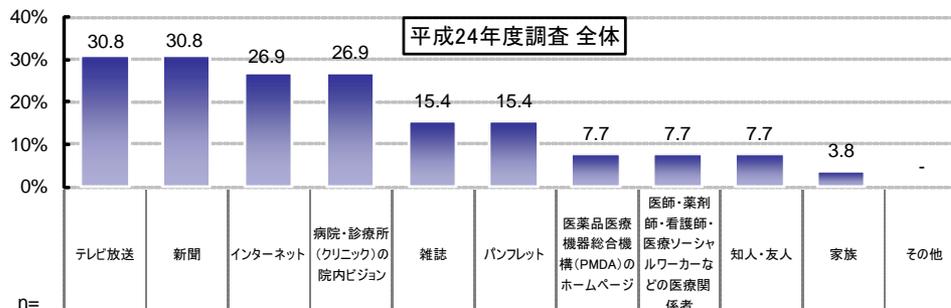
・フォーラム『医薬品の副作用被害と救済制度』(2012年11月18日開催)の認知率は1%。

Q17 フォーラム『医薬品の副作用被害と救済制度』認知媒体

複数回答

H24 Q17 あなたは、フォーラム「医薬品の副作用被害と救済制度」が開催されたことを、どのようにして(何から)知りましたか。あてはまるものをすべてお選びください。

※フォーラム認知者ベース



n=		平成24年度調査 全体	テレビ放送	新聞	インターネット	病院・診療所(クリニック)の院内ビジョン	雑誌	パンフレット	医薬品医療機器総合機構(PMDA)のホームページ	医師・薬剤師・看護師・医療ソーシャルワーカーなどの医療関係者	知人・友人	家族	その他
平成24年度調査 全体		(26)	30.8	30.8	26.9	26.9	15.4	15.4	7.7	7.7	7.7	3.8	-
性 年 代 別	男性 計	(19)	26.3	31.6	21.1	26.3	15.8	10.5	5.3	5.3	5.3	-	-
	男性20代	(7)	42.9	14.3	28.6	28.6	28.6	14.3	-	-	-	-	-
	男性30代	(5)	20.0	-	-	20.0	20.0	-	20.0	20.0	20.0	-	-
	男性40代	(1)	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	男性50代	(4)	-	50.0	25.0	25.0	-	-	-	-	-	-	-
	男性60代以上	(2)	50.0	100.0	50.0	50.0	-	50.0	-	-	-	-	-
	女性 計	(7)	42.9	28.6	42.9	28.6	14.3	28.6	14.3	14.3	14.3	14.3	-
	女性20代	(3)	66.7	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	-	-	-
	女性30代	(2)	-	50.0	50.0	-	-	-	-	-	50.0	50.0	-
	女性40代	(-)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
女性50代	(1)	-	-	100.0	100.0	-	100.0	-	-	-	-	-	
女性60代以上	(1)	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
者 受 別 診	受診者	(21)	33.3	33.3	28.6	28.6	14.3	19.0	9.5	4.8	9.5	4.8	-
	非受診者	(5)	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	-	-	20.0	-	-	-

・主な認知経路は「テレビ放送」と「新聞」が31%、「インターネット」と「病院・診療所(クリニック)の院内ビジョン」が27%。

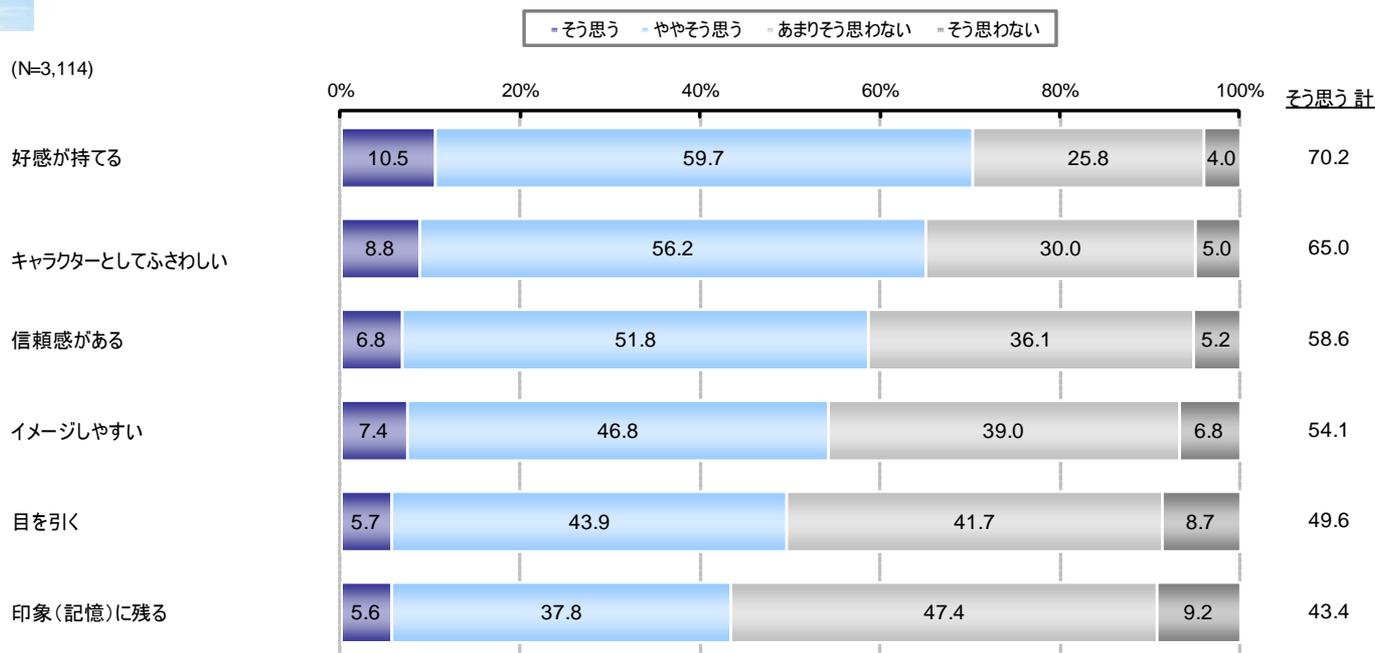
Q18 キャラクターの評価（全体）

単一回答

H24 Q18 キャラクター（ドクトルQ）をご覧になった感想をお聞きます。以下それぞれにあてはまると思われるものをひとつお選びください。



(N=3,114)



・キャラクターの評価（そう思う＋ややそう思う）で最も高い項目は「好感が持てる」70%。以下、「キャラクターとしてふさわしい」65%、「信頼感がある」59%が続く。

Q18 キャラクターの評価（性・年代別）

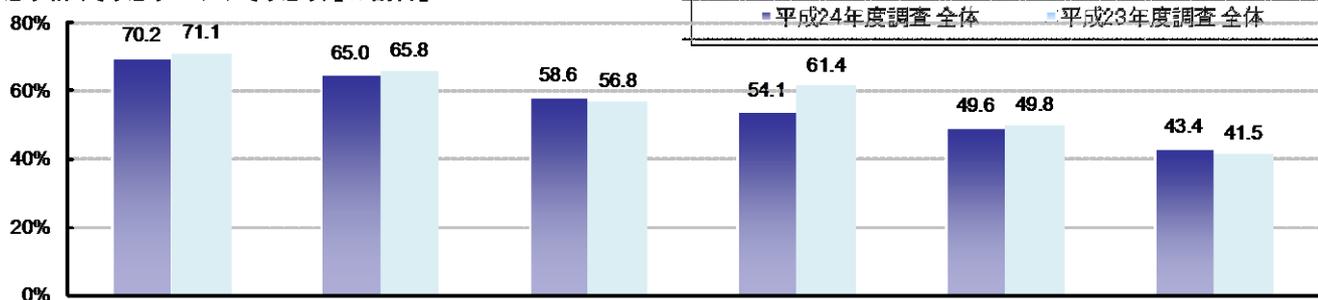
単一回答

H24 Q18 キャラクター(ドクトルQ)をご覧になった感想をお聞きます。以下それぞれにあてはまると思われるものをひとつお選びください。

H23 Q15 キャラクター(ドクトルQ)をご覧になった感想をお聞きます。以下それぞれにあてはまると思われるものをひとつお選びください。



【そう思う計(そう思う+ややそう思う)の割合】



■ 全体+10未満以上
■ 全体 +5未満以上
■ 全体 -5未満以上
■ 全体-10未満以上
(n=30以上の場合)

		n=	好感が持てる	キャラクターとしてふさわしい	信頼感がある	イメージしやすい	目を引く	印象(記憶)に残る
平成24年度調査 全体		(3,114)	70.2	65.0	58.6	54.1	49.6	43.4
性年代別	男性 計	(1,551)	62.9	57.8	50.7	48.2	45.6	39.8
	男性20代	(307)	53.4	58.3	46.3	42.0	37.5	26.4
	男性30代	(312)	54.8	51.9	45.5	38.5	32.7	30.4
	男性40代	(308)	62.0	56.2	51.0	43.8	42.2	36.0
	男性50代	(314)	69.1	58.9	52.9	52.9	53.2	47.1
	男性60代以上	(310)	75.2	63.5	58.1	63.9	62.6	59.0
	女性 計	(1,563)	77.4	72.2	66.5	60.0	53.4	46.9
	女性20代	(311)	72.0	68.8	59.2	47.9	38.9	31.2
	女性30代	(311)	70.1	67.5	63.3	58.8	45.0	37.9
	女性40代	(314)	79.9	74.8	68.5	62.7	50.3	44.3
女性50代	(314)	83.8	76.8	70.7	63.1	59.2	55.7	
女性60代以上	(313)	81.2	72.8	70.6	67.4	73.5	65.2	
平成23年度調査 全体		(3,090)	71.1	65.8	56.8	61.4	49.8	41.5

※平成23年調査の選択肢「分かりやすい」は「イメージしやすい」に置き換え

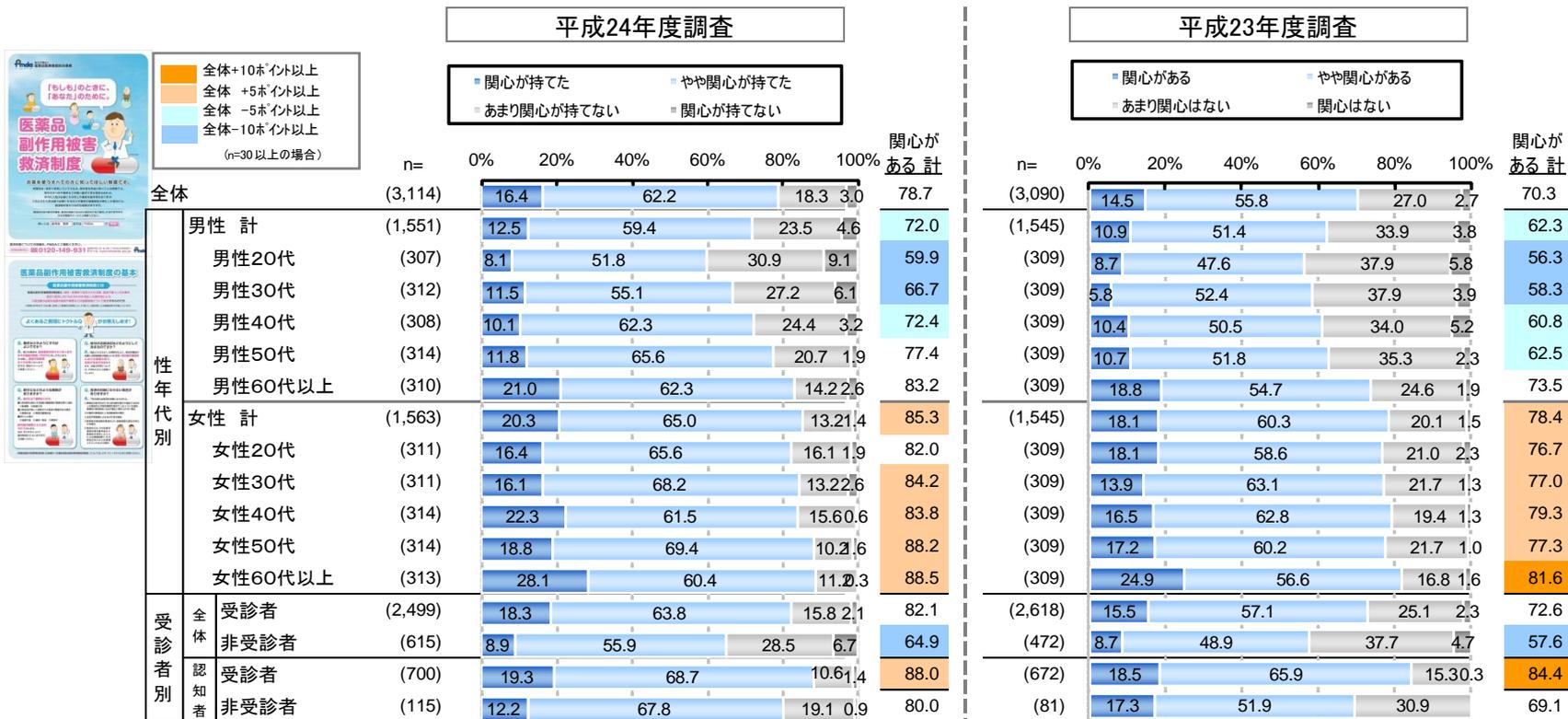
・キャラクターも広告と同様に「女性」の評価が高い。

Q19 医薬品副作用被害救済制度 関心度

単一回答

H24 Q19 画像(パンフレット)をよくお読みになってからお答えください。あなたは「医薬品副作用被害救済制度」について、どの程度関心が持てましたか。

H23 Q16 画像(パンフレット)をよくお読みになってからお答えください。あなたは「医薬品副作用被害救済制度」について、どの程度関心がありますか。



・医薬品副作用被害救済制度についての関心度(関心がある+やや関心がある)は79%。昨年度を上回っている。

【性・年代別】

・「女性」の関心が高く、いずれの年代でも80%以上。

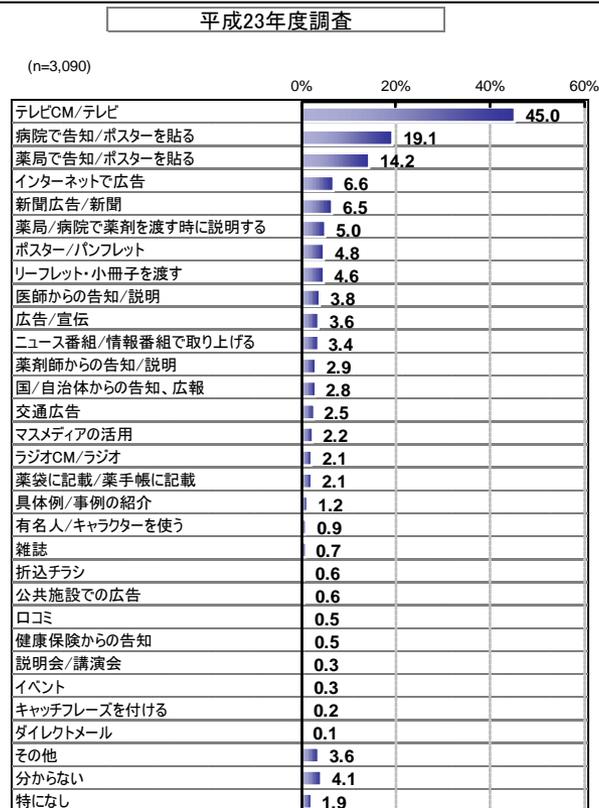
【受診者別】

・全体ベースで関心度(関心がある+やや関心がある)は「受診者」が82%、「非受診者」が65%。

Q20 制度周知方法 <自由記述>

H24 Q20 「医薬品副作用被害救済制度」を広く皆様に知っていただくためには、どのような広報が効果的だと思いますか。

H23 Q24 「医薬品副作用被害救済制度」を広く皆様に知っていただくためには、どのような方法が効果的だと思いますか。



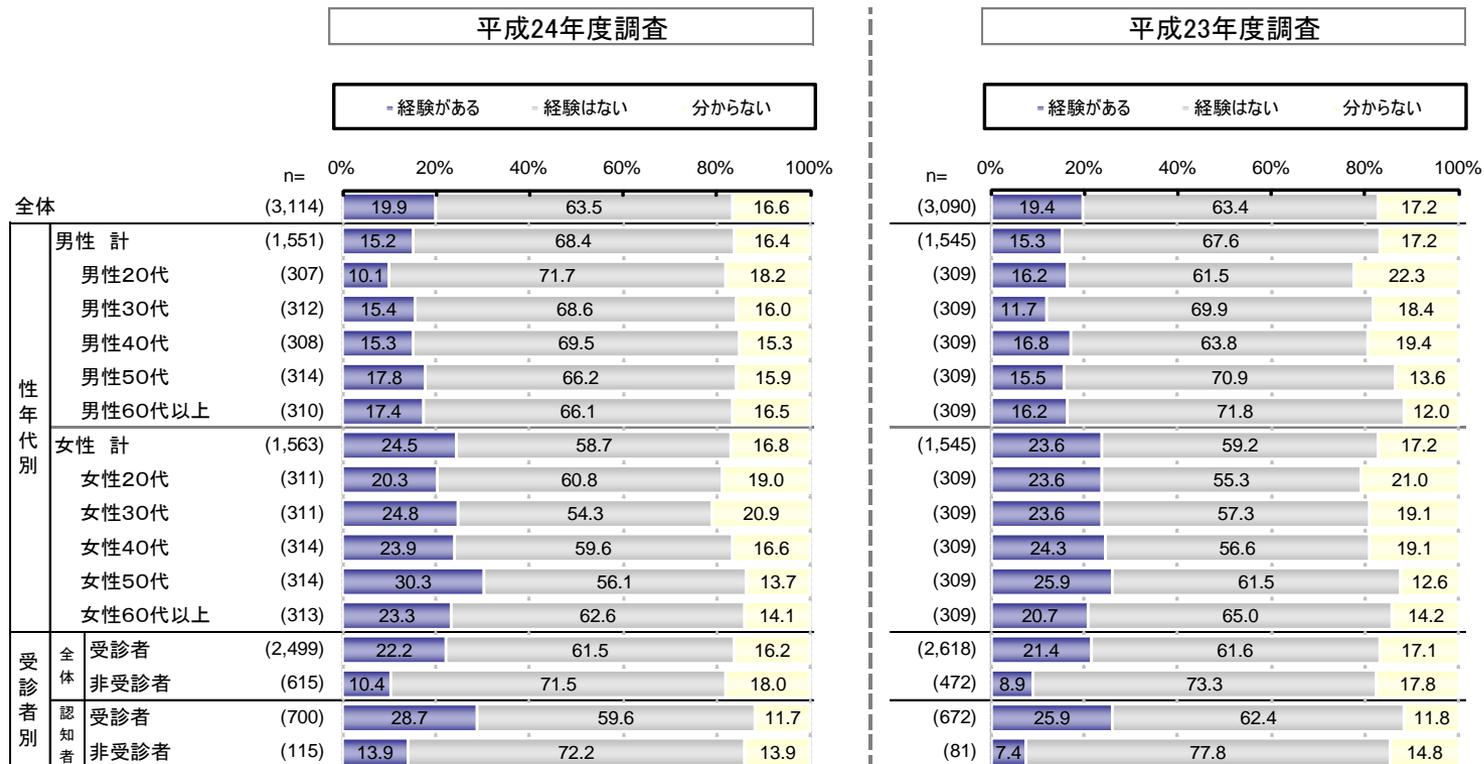
・周知の方法としては、「テレビCM／テレビ」が39%と最も高く、「病院で告知」21%、「薬局で告知」16%が続く。

Q21 副作用の経験（本人）

単一回答

H24 Q21 あなたは、これまでに医薬品による副作用または副作用と思われる経験をしたことがありますか。

H23 Q18 あなたは、これまでに医薬品による副作用または副作用と思われる経験をしたことがありますか。



・医薬品による副作用と思われる経験が「ある」は20%、昨年とあまり差はみられない。

【性・年代別】

・女性の方が副作用と思われる経験があり、「女性50代」では30%と高め。

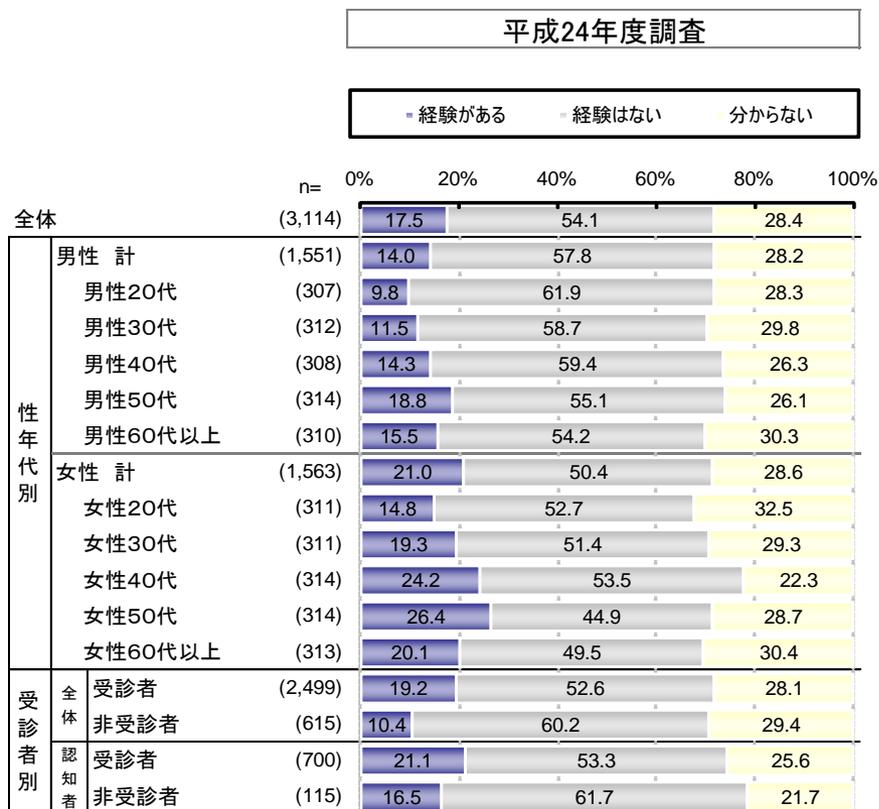
【受診者別】

・全体ベースで「受診者」の22%に副作用と思われる経験がある。

Q22 副作用の経験（家族・知人）

単一回答

H24 Q22 家族・知人が、これまでに医薬品による副作用または副作用と思われる経験をしたことがありますか。



・医薬品による家族・知人の副作用と思われる経験が「ある」は18%。本人の経験(20%)より低め。

【性・年代別】

・「女性40代」で24%、「女性50代」で26%と高め。

【受診者別】

・全体ベースで「受診者」が19%と、「非受診者」に比較して高め。

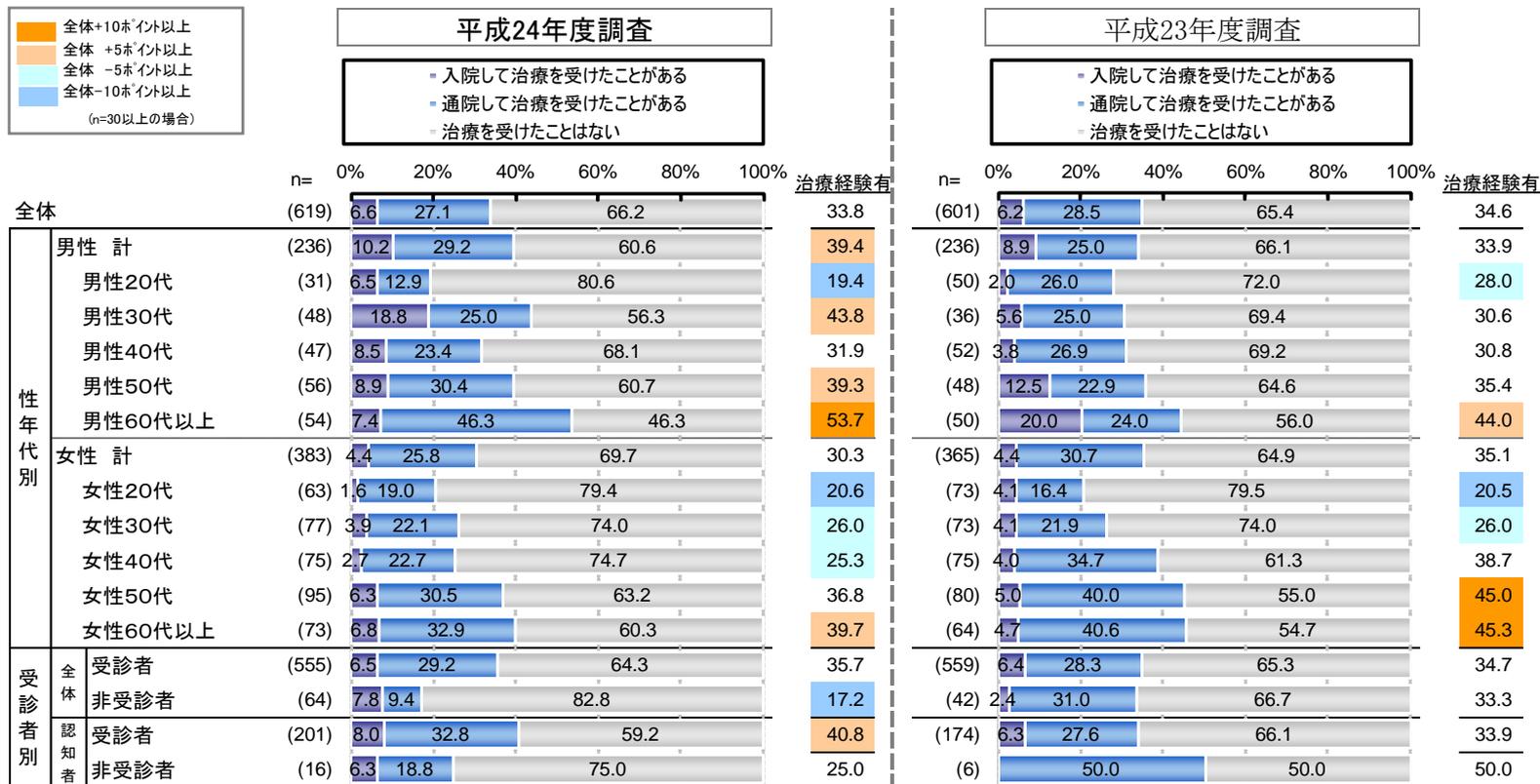
Q23 副作用で治療を受けた経験

単一回答

H24 Q23 あなたが医薬品による副作用にあった際に、医療機関で副作用の治療を受けたことがありますか。

H23 Q19 あなたが医薬品による副作用にあった際に、医療機関で治療を受けたことがありますか。

※副作用経験者ベース



・副作用経験者のうち、医薬品による副作用で治療を受けた経験が「ある」は34%。

【性・年代別】

・「男性30代」、「男性60代」、「女性60代」に治療を受けた経験が高め。

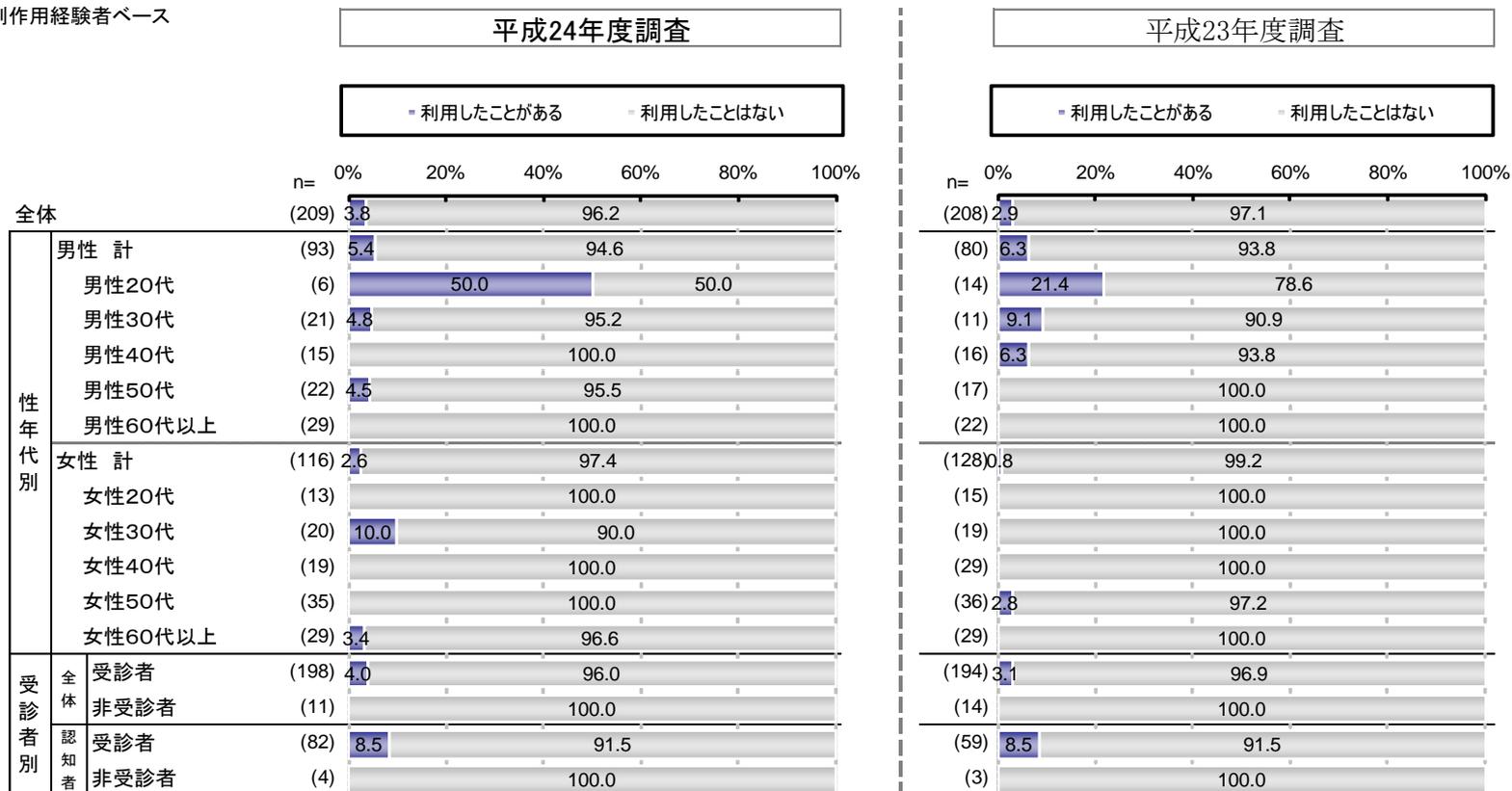
Q24 医薬品副作用被害救済制度を利用した経験

単一回答

H24 Q24 あなたは医薬品の副作用の治療を受けた際に、「医薬品副作用被害救済制度」を利用したことがありますか。

H23 Q20 あなたは医薬品の副作用の治療を受けた際に、「医薬品副作用被害救済制度」を利用したことがありますか。

※副作用経験者ベース



・医薬品副作用被害救済制度の利用経験は4%。

【性・年代別】

・昨年度と同様、男性の利用経験の方がやや高い。

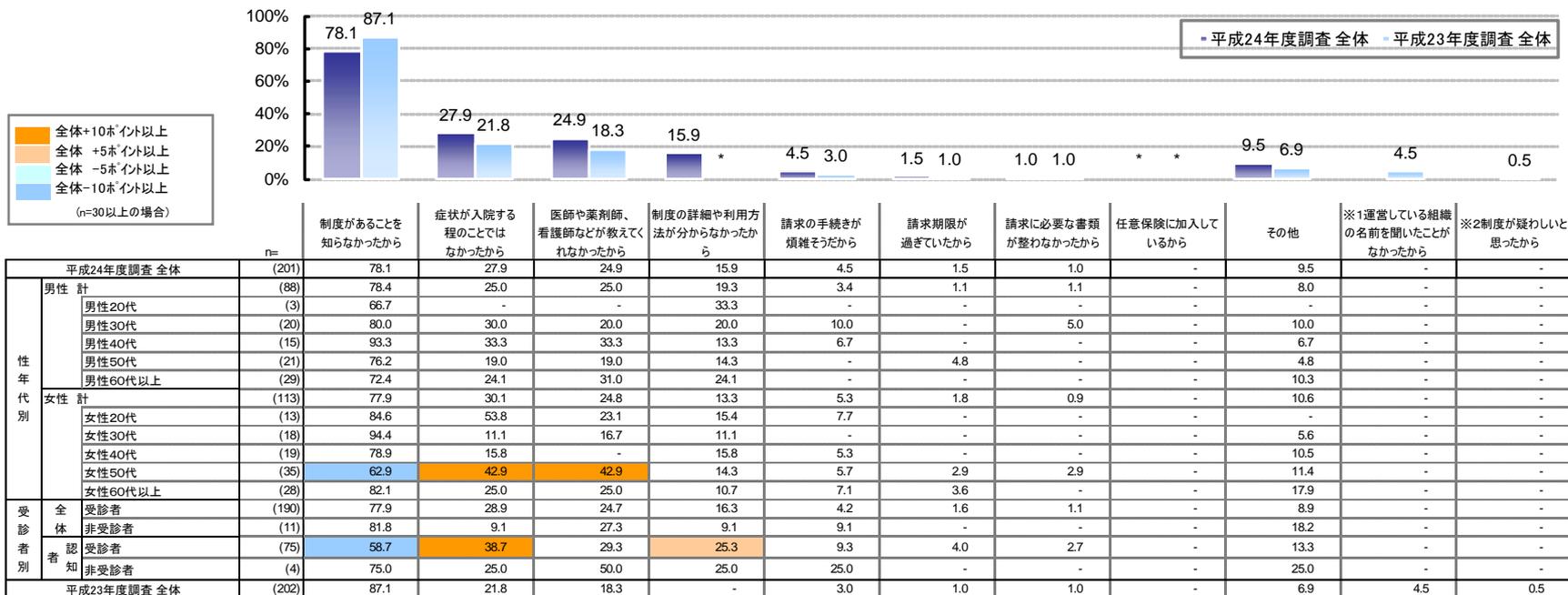
Q25 医薬品副作用被害救済制度を利用しなかった理由

複数回答

H24 Q25 あなたが「医薬品副作用被害救済制度」を利用しなかった理由について、あてはまるものをすべてお選びください。

H23 Q21 あなたが「医薬品副作用被害救済制度」を利用しなかった理由について、あてはまるものをすべてお選びください。

※非利用者ベース



平成24年度調査全体値の降順にソート（※1と※2は平成24年度非聴取項目）

・制度を利用しなかった理由は、昨年と同様「制度があることを知らなかったから」が最も高くなっている。

【性・年代別】

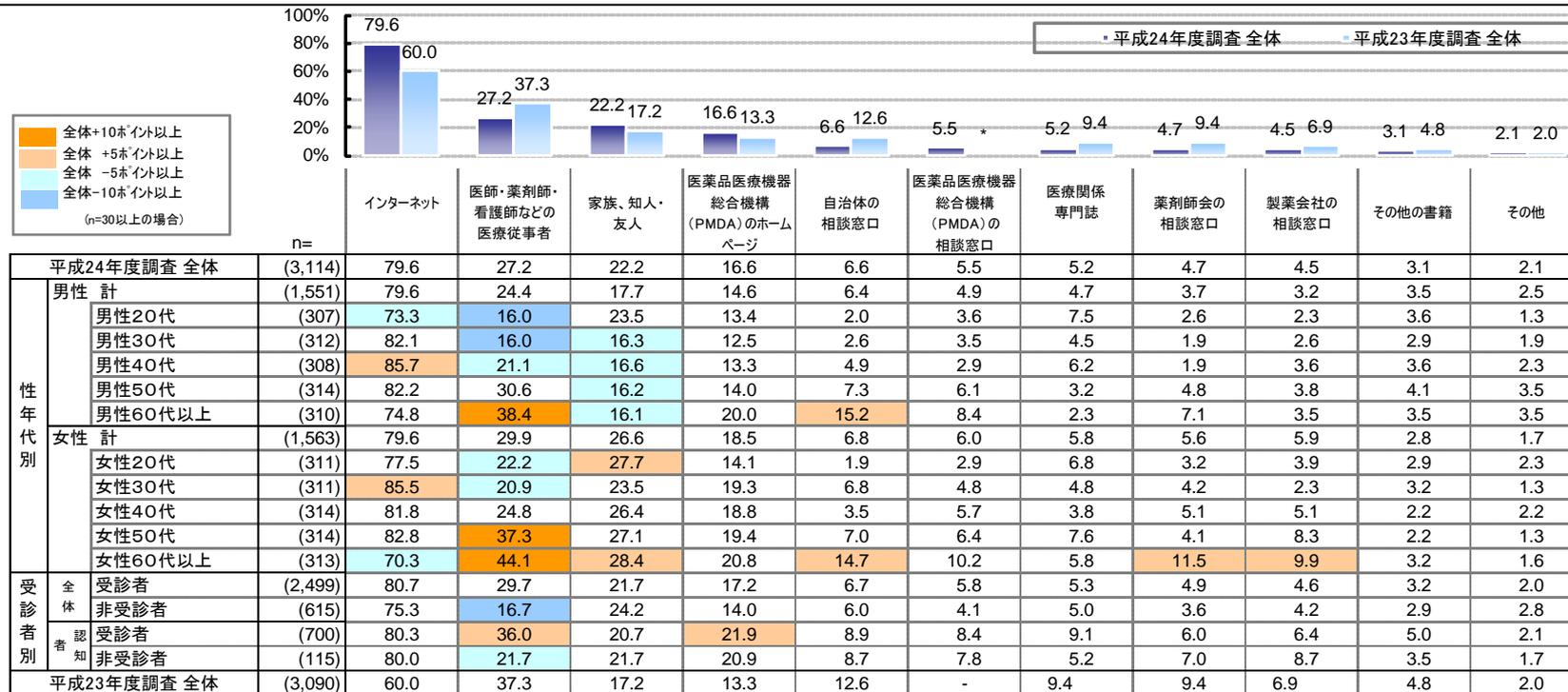
・「女性50代」では、「症状が入院するほどのことではなかったから」と「医師や薬剤師、看護師などが教えてくれなかったから」が高い。

Q26 医薬品副作用被害救済制度 情報収集の方法

複数回答

H24 Q26 あなたが「医薬品副作用被害救済制度」や「薬の副作用」について詳細な情報を収集する場合、どのような方法で情報を入手しますか。あてはまるものをすべてお選びください。

H23 Q19 あなたが「医薬品副作用被害救済制度」や「薬の副作用」について詳細な情報を収集する場合、どのような方法で情報を入手しますか。



平成24年度調査全体値の降順にソート

・望ましい情報収集の方法として、「インターネット」80%、「医師・薬剤師・看護師などの医療従事者」27%、「家族、知人・友人」22%が上位となっている。

【性・年代別】

・高齢層は、「医師・薬剤師・看護師などの医療従事者」が高くなっている。

【受診者別】

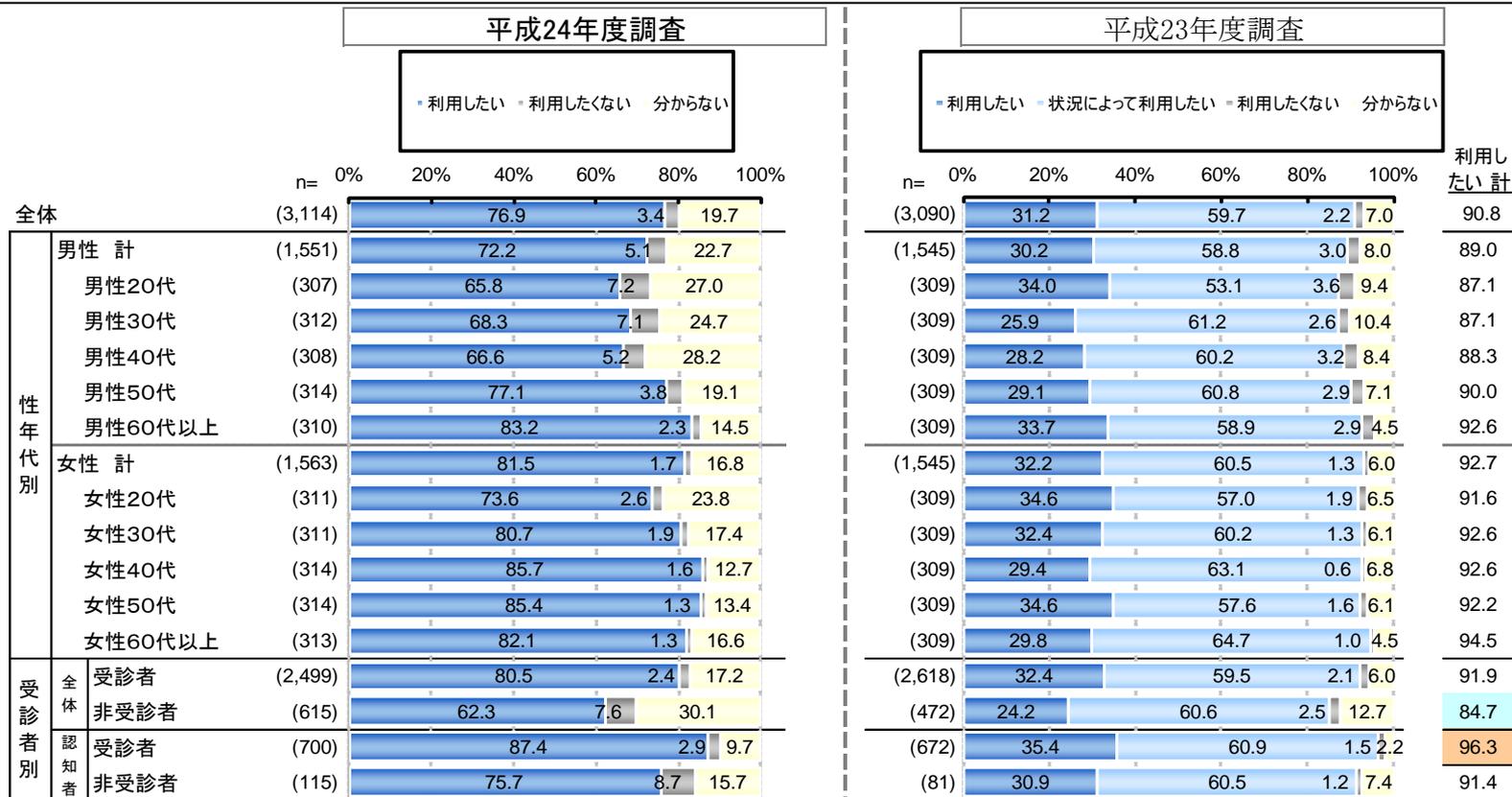
・「受診者」は、「医師・薬剤師・看護師などの医療従事者」が高くなっている。

Q27 医薬品副作用被害救済制度 今後の利用意向

単一回答

H24 Q27 今後、あなたが制度の対象となるような重篤な副作用にあった場合、「医薬品副作用被害救済制度」を利用したいと思いますか。

H23 Q22 今後、あなたが制度の対象となるような医薬品の副作用にあった場合、「医薬品副作用被害救済制度」を利用したいと思いますか。



今後の利用意向は77%。

【性・年代別】

・「男性60代以上」、「女性30代以上」で利用意向が80%を上回っている。

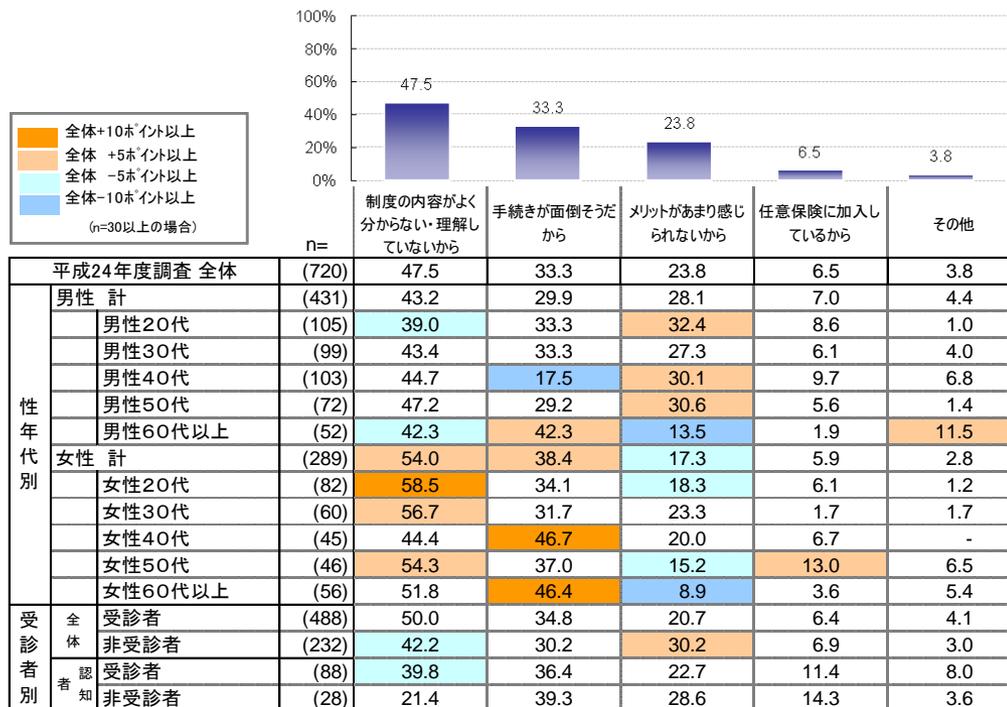
Q28 医薬品副作用被害救済制度 利用したくない理由

複数回答

H24 Q28 今後、あなたが制度の対象となるような重篤な副作用にあった場合、「医薬品副作用被害救済制度」を利用したくない、分からないと回答された理由は何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。

※非利用傾向者ベース

平成24年度調査 全体



・制度を利用したくない理由は、「制度の内容がよく分からない・理解していないから」が48%。以下「手続きが面倒そうだから」33%、「メリットがあまり感じられないから」24%と続く。

【性・年代別】

・女性は「制度の内容がよく分からない・理解していないから」が高め。男性は「メリットがあまり感じられないから」が高め。

付録：調査票

〔平成24年度調査〕

Q1 あなたは、過去1年以内に医療機関にかかりましたか。

(回答は1つ)

- はい
- いいえ

Q2 あなたは、過去1年以内に医療機関をどのように利用(入院・通院)しましたか。

(回答は1つ)

- 入院した
- 入院はしていないが通院した
- 入院し、別途通院もした

Q3 あなたは、過去1年以内にどのような規模の医療機関をもっとも多く利用(回数)しましたか。

(回答は1つ)

- 病院 (ベッド数20床以上)
- 診療所、クリニック、医院など

Q4 あなたが、過去1年以内に利用された病院はどこですか。もっとも多く利用されたところをひとつお選びください。

(回答は1つ)

- 国立病院
- 大学病院
- 都道府県立病院または市町村立病院
- 日本赤十字社病院 (日本赤十字社医療センター、〇〇赤十字病院など)
- 済生会病院 (済生会〇〇病院、〇〇済生病院など)
- 厚生連病院 (厚生連〇〇病院、〇〇厚生病院など)
- その他 (上記以外の病院)

Q5 あなたは、過去1年以内に医薬品(薬)を使用しましたか。

(回答は1つ)

- 医療機関で処方された医薬品を使用した
- 市販されている医薬品を使用した
- 医療機関で処方された医薬品、市販されている医薬品ともに使用した
- 使用していない

Q6 あなたは、その医薬品をどこで購入(入手)しましたか。あてはまるものをすべてお選びください。

(回答は1つでも)

- 院内処方 (医療機関の中にある薬局または調剤窓口)
- 院外処方 (医療機関の外にある薬局・ドラッグストアの調剤窓口)
- 薬局 (院外処方を除く)・薬店 (ドラッグストア)
- コンビニエンスストア
- 通信販売
- 置き薬 (配置薬)
- 勤務先・学校
- その他 具体的に:

Q7 あなたは、副作用が起きたときに、医療費等の救済給付を行う公的な「医薬品副作用被害救済制度」があることをご存じですか。

(回答は1つ)

- 知っている
- 聞いたことがある
- 知らない

Q8 あなたは、輸血用血液製剤などを介して感染などが発生した場合に、医療費等の救済給付を行う公的な「生物由来製品感染等被害救済制度」があることをご存じですか。

(回答は1つ)

- 知っている
- 聞いたことがある
- 知らない

Q9 「医薬品副作用被害救済制度」について、以下それぞれにあてはまるものをひとつお選びください。

(回答は1つ)

1/6

医薬品の副作用による被害を受けた方の迅速な救済を図ることを目的とした公的な制度である

- 知っている
 知らない
 分からない

次を表示

2/6

医薬品を、適正に使用したにもかかわらず発生した副作用による疾病や障害などの健康被害について救済給付を行う

- 知っている
 知らない
 分からない

次を表示

3/6

入院が必要な程度の疾病や障害などの健康被害について救済給付を行う

- 知っている
 知らない
 分からない

次を表示

4/6

救済給付の種類にはいくつかの種類がある(医療費・医療手当・障害年金・障害児養育年金・遺族年金・遺族一時金・葬祭料)

- 知っている
 知らない
 分からない

次を表示

5/6

救済給付には、種類ごとにそれぞれ請求期限がある

- 知っている
 知らない
 分からない

次を表示

6/6

救済給付の請求には、医師が作成した診断書などが必要である

- 知っている
 知らない
 分からない

次を表示

Q10 あなたは「医薬品副作用被害救済制度」をどのようにして(何から)知りましたか。または、どのようにして(何から)聞きましたか。あてはまるものをすべてお選びください。

(回答はいくつでも)

<input type="checkbox"/> テレビ放送	<input type="checkbox"/> パンフレット
<input type="checkbox"/> ラジオ放送	<input type="checkbox"/> ポスター・ステッカー・看板
<input type="checkbox"/> 新聞	<input type="checkbox"/> 医薬品医療機器総合機構 (PMDA) 主催のシンポジウム
<input type="checkbox"/> 医療関係専門誌	<input type="checkbox"/> 学会等のシンポジウム
<input type="checkbox"/> 雑誌	<input type="checkbox"/> 医薬品医療機器総合機構 (PMDA) のホームページ
<input type="checkbox"/> 医薬品の外箱・説明書	<input type="checkbox"/> インターネット
<input type="checkbox"/> お薬手帳・薬袋	<input type="checkbox"/> 聞いた/教えてもらった
<input type="checkbox"/> 病院・診療所 (クリニック) の院内ビジョン	<input type="checkbox"/> その他 具体的に: <input type="text"/>

Q11 あなたは「医薬品副作用被害救済制度」について、誰から知りましたか。あてはまるものをすべてお選びください。

(回答はいくつでも)

<input type="checkbox"/> 医師	<input type="checkbox"/> 弁護士
<input type="checkbox"/> 薬剤師	<input type="checkbox"/> 家族
<input type="checkbox"/> 看護師	<input type="checkbox"/> 知人・友人
<input type="checkbox"/> 医療機関の事務担当者	<input type="checkbox"/> 薬剤師会の相談窓口
<input type="checkbox"/> 医療ソーシャルワーカー	<input type="checkbox"/> 製薬会社の相談窓口
<input type="checkbox"/> 自治体の職員	<input type="checkbox"/> 医薬品医療機器総合機構 (PMDA) の相談窓口
<input type="checkbox"/> 保健所の職員	<input type="checkbox"/> その他 具体的に: <input type="text"/>

Q12 あなたは「医薬品副作用被害救済制度」のパンフレット、ポスター・ステッカー・看板をどこで見ましたか。あてはまるものをすべてお選びください。

(回答はいくつでも)

<input type="checkbox"/> 電車
<input type="checkbox"/> 駅構内
<input type="checkbox"/> 薬局・薬店 (ドラッグストア)
<input type="checkbox"/> 病院・診療所 (クリニック)
<input type="checkbox"/> 自治体・保健所などの公共機関
<input type="checkbox"/> その他 具体的に: <input type="text"/>

画像(新聞広告、ポスター、インターネット)をご覧になってからお答えください。



<新聞広告>



<ポスター>



<インターネットバナー>

Q13 あなたは、これまでにこれらの画像をひとつでも見たことがありますか。

(回答は1つ)

- 見たことがある
- 見たような気がする
- 見たことはない

Q14 あなたは、どこでこの広告を見ましたか。あてはまるものをすべてお選びください。

(回答は複数可)

- 新聞 (朝日・読売・毎日の全国紙)
- 薬局・薬店 (ドラッグストア)
- 病院・診療所 (クリニック)
- 自治体・保健所などの公共機関
- インターネット
- 電車内
- その他
- 思い出せない

Q15 画像(新聞広告、ポスター、インターネット)をご覧になった感想をお聞きます。以下それぞれにあてはまると思われるものをひとつお選びください。

(回答は1つ)

1/5

役に立つ情報が得られる

そう思う

ややそう思う

あまり
そう思わない

そう思わない

2/5

内容がよく理解できる

そう思う

ややそう思う

あまり
そう思わない

そう思わない

3/5

興味や関心を呼ぶ

そう思う

ややそう思う

あまり
そう思わない

そう思わない

4/5

印象(記憶)に残る

そう思う

ややそう思う

あまり
そう思わない

そう思わない

5/5

医薬品医療機器総合機構(PMDA)のホームページにアクセスしなくなる

そう思う

ややそう思う

あまり
そう思わない

そう思わない

Q16 あなたは、フォーラム「医薬品の副作用被害と救済制度」(2012年11月18日)が開催されたことをご存じでしたか。

(回答は1つ)

- 知っていた
- 知らなかった

Q17 あなたは、フォーラム「医薬品の副作用被害と救済制度」が開催されたことを、どのようにして(何から)知りましたか。あてはまるものをすべてお選びください。

(回答はいくつでも)

- フォーラムのテレビ放送 (2013年3月16日に、NHK Eテレ (教育テレビ) で放映)
- 新聞
- 雑誌
- パンフレット
- 医薬品医療機器総合機構 (PMDA) のホームページ
- インターネット
- 病院・診療所 (クリニック) の院内ビジョン
- 医師・薬剤師・看護師・医療ソーシャルワーカーなどの医療関係者
- 家族
- 知人・友人
- その他



<ドクトルQ>

Q18 キャラクター(ドクトルQ)をご覧になった感想をお聞きます。以下それぞれにあてはまると思われるものをひとつお選びください。

(回答は1つ)

1/6

目を引く

- そう思う
- ややそう思う
- あまり
そう思わない
- そう思わない

2/6

印象(記憶)に残る

- そう思う
- ややそう思う
- あまり
そう思わない
- そう思わない

3/6

好感が持てる

- そう思う
- ややそう思う
- あまり
そう思わない
- そう思わない

4/6

イメージしやすい

- そう思う
- ややそう思う
- あまり
そう思わない
- そう思わない

5/6

信頼感がある

- そう思う
- ややそう思う
- あまり
そう思わない
- そう思わない

6/6

キャラクターとしてふさわしい

- そう思う
- ややそう思う
- あまり
そう思わない
- そう思わない



「もしも」のときに、「あなた」のために。

医薬品副作用被害救済制度

お薬を使うすべての方に知ってほしい制度です。

医薬品は、適正に使用していてもなお、副作用を完全に防ぐことは困難です。偶発的かつ重篤な副作用や副作用で苦しむ場合もあります。まれに入院が必要になるほど重篤な副作用もあります。このような入院が必要になるなど治療に支障をきたした場合には、救済給付を行う公的救済制度があります。

病状の方向や副作用の種類、救済の対象となる症状などを事前に知りておくことで、まずは電話やメールでご相談ください。

詳しくは 副作用 救済 または PMDA で 検索

救済制度についての詳細は、PMDAにご確認ください。
電話番号：0120-149-931（受付時間：9時～17時）
Eメール：kyufu@pmda.go.jp

<パンフレット1頁>

医薬品副作用被害救済制度の基本

医薬品副作用被害救済制度とは

医薬品副作用被害救済制度は、病気・診断所で処方された薬、薬局で購入した医薬品適正に使用したにもかかわらず発生した副作用により、入院治療が必要な程度の副作用や障害などの治療費について救済するものです。
※原則として処方した医薬品が原因となつて発生した副作用による治療費が対象となります。

よくあるご質問にドクトルQ がお答えします！

Q. 請求はどのようにすればよいですか？

A. 処方のお薬は、医療機関を処方した本人またはその家族が主治医、PMDAに申し立てています。お薬の処方箋などが必要となります。また、処方箋がメールでご確認ください。

Q. 給付の支給決定はどのようにして決まるのですか？

A. 提出いただきました情報をもとに、厚生労働省が医師・中絶治療費がかかる 薬物-副作用被害救済委員会に審査を依頼して、委員の審査が決定されます。審査の結果については、PMDAからご連絡いたします。

Q. 給付にはどのような種類がありますか？

A. 給付には7種類の給付があります。
①入院治療費
 ②入院治療費による副作用治療費で治療を受けた場合
 ③入院治療費 ④治療費
 ⑤入院治療費が重篤な副作用を引き起こした場合
 ⑥入院治療費が重篤な副作用を引き起こした場合
 ⑦入院治療費が重篤な副作用を引き起こした場合
 ⑧入院治療費が重篤な副作用を引き起こした場合

Q. 請求の対象にならない場合がありますか？

A. 下記の場合には請求の対象にはなりません。
①医薬品以外の原因による副作用で発生した副作用
 ②副作用が軽微なものである場合
 ③副作用が軽微なものである場合
 ④副作用が軽微なものである場合
 ⑤副作用が軽微なものである場合
 ⑥副作用が軽微なものである場合
 ⑦副作用が軽微なものである場合
 ⑧副作用が軽微なものである場合

「医薬品副作用被害救済制度」の目的や「副作用被害救済制度」については、HP「副作用被害救済制度」をご覧ください。

<パンフレット2頁>

Q19 画像（パンフレット）をよくお読みになってからお答えください。あなたは「医薬品副作用被害救済制度」について、どの程度関心が持てましたか。

（回答は1つ）

関心が持てた	やや関心が持てた	あまり関心が持てない	関心が持てない
--------	----------	------------	---------

Q20 「医薬品副作用被害救済制度」を広く皆様に知っていただくためには、どのような広報が効果的だと思いますか。

（回答は具体的に）

Q21 あなたは、これまでに医薬品による副作用または副作用と思われる経験をしたことがありますか。

（回答は1つ）

経験がある
 経験はない
 分からない

Q22 家族・知人が、これまでに医薬品による副作用または副作用と思われる経験をしたことがありますか。

(回答は1つ)

- 経験がある
- 経験はない
- 分からない

Q23 あなたが医薬品による副作用にあった際に、医療機関で副作用の治療を受けましたことがありますか。

(回答は1つ)

- 入院して治療を受けたことがある
- 通院して治療を受けたことがある
- 治療を受けたことはない

Q24 あなたは医薬品の副作用の治療を受けた際に、「医薬品副作用被害救済制度」を利用したことがありますか。

(回答は1つ)

- 利用したことがある
- 利用したことはない

Q25 あなたが「医薬品副作用被害救済制度」を利用しなかった理由について、あてはまるものをすべてお選びください。

(回答はいくつでも)

- 制度があることを知らなかったから
- 制度の詳細や利用方法が分からなかったから
- 医師や薬剤師、看護師などが教えてくれなかったから
- 症状が入院する程のことではなかったから
- 請求期限が過ぎていたから
- 請求の手続きが煩雑そうだから
- 請求に必要な書類が整わなかったから
- 任意保険に加入しているから
- その他 具体的に：

Q26 あなたが「医薬品副作用被害救済制度」や「薬の副作用」について詳細な情報を収集する場合、どのような方法で情報を入れますか。あてはまるものをすべてお選びください。

(回答はいくつでも)

- 医療関係専門誌
- その他の書籍
- 医薬品医療機器総合機構 (PMDA) のホームページ
- インターネット
- 医薬品医療機器総合機構 (PMDA) の相談窓口
- 医師・薬剤師・看護師・医療ソーシャルワーカーなどの医療従事者
- 製薬会社の相談窓口
- 自治体の相談窓口
- 薬剤師会の相談窓口
- 家族、知人・友人
- その他 具体的に：

「医薬品副作用被害救済制度」は、病院・診療所(クリニック)で処方された医薬品や薬局などで購入した医薬品を適正に使用したにもかかわらず発生した副作用による入院が必要な程度の疾病や障害などの健康被害を受けた方に対して、救済給付を行う公的な制度です。

Q27 今後、あなたが制度の対象となるような重篤な副作用にあった場合、「医薬品副作用被害救済制度」を利用したいと思いますか。

(回答は1つ)

- 利用したい
- 利用したくない
- 分からない

Q28 今後、あなたが医薬品の重篤な副作用にあった場合、「医薬品副作用被害救済制度」の利用について「利用したくない」と回答されましたが、その理由は何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。

(回答はいくつでも)

- 制度の内容及びよく分からない・理解していないから
- 手続きが面倒そうだから
- 任意保険に加入しているから
- メリットがあまり感じられないから
- その他 具体的に：
